

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 看護学研究科 看護学専攻

1. シラバスについて、授業内容が抽象的な内容にとどまり具体的な計画が明示されていない科目や到達目標と授業計画が整合していない科目、大学院としてふさわしい教育成果を上げる授業計画なのか疑義がある科目など、不十分なシラバスが幾つか見受けられる。大学院設置基準第14条の2で求められる授業等の計画の明示がなされていないと思われるため、全ての科目のシラバスを確認した上で、適切に改めること。（是正意見）……1
2. 研究計画書の作成（1年次1月）では、主研究指導教員は必要に応じて研究科委員会から助言を受けることができることが示されているが、「必要に応じて」の意図が不明である。研究指導における研究科委員会の位置付けや役割と「必要に応じて」とした理由を明確に説明するか、若しくは適切に改めること。（改善意見）……119
3. 教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、今後の採用計画など教員組織編製の将来構想の明確化が望まれるので、対応方針について回答すること。（改善意見）……121

1. シラバスについて、授業内容が抽象的な内容にとどまり具体的な計画が明示されていない科目や到達目標と授業計画が整合していない科目、大学院としてふさわしい教育成果を上げる授業計画なのか疑義がある科目など、不十分なシラバスが幾つか見受けられる。大学院設置基準第14条の2で求められる授業等の計画の明示がなされていないと思われるため、全ての科目のシラバスを確認した上で、適切に改めること。

(対応)

是正意見を受け、全てのシラバスを見直し、授業内容が具体的でない、目標と授業計画の不整合、大学院教育としてふさわしい目標設定になっていないなどの不備について検討し、大学院設置基準第14条の2で求められる授業等の計画の明示に整合するよう修正を行った。また、学生がシラバスより自身の学習内容や行動内容、予習すべき内容を具体的に想起できるよう、授業内容や授業の進行方法をより具体的な表現方法に改めた。

以下に、各科目のシラバスに関する修正方針の概要を示す。

看護理論

到達目標及び授業内容に関して、説明不足により学生が授業内容を想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、到達目標の専門用語を伝わり易いよう配慮するとともに、授業内容に関しても、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。

看護研究方法論

到達目標に関して、学生に看護研究を行う意義を意識させるまで至らない内容となっており、看護学の修士を修める大学院としては目標としてやや不十分だと考え、看護実践のための看護研究を行うことを意識した内容に改めた。

また、授業内容に関しての説明不足により、学生が授業内容を想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。

Glocal Nursing Field Work

授業計画に関して、オリエンテーションと第14・15回の発表会以外は、専門領域のコースによって担当する教員や選択する演習のフィールドが異なる設定となるため、学生の理解を促し、スムーズな選択が可能となるよう、第1回目のオリエンテーションの中にコース設定を明記し、それぞれどのようなフィールドを選択し、どの教員が担当するかを明記した。第2回目の計画策定に関しても、具体的な内容を記し、第3～13回については、活動のポイント、展開方法、記録・報告、活動時間といった、具体的な内容を記載し、学生が学習計画を立てやすいよう工夫した。

また、本科目は地域における看護実践者の育成を志向する本大学院の入学時の鍵となる科目でもあるため、到達目標に地域の健康課題やその解決策だけでなく「地域の健康に関する強み」についても意識して学ぶよう加筆するとともに、第14・15回の授業内容にある討論内容については、地域への効果的な関わり方について加筆し、到達目標との整合性を図った。

看護倫理学特論

到達目標に関して、学生自身の看護実践に関する倫理的課題が明記されていない内容となっており、看護学の修士を修める大学院としては目標としてやや不十分だと考え当該の内容を加筆した。また、授業内容に関しての説明不足により、学生が授業内容を想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。なお、加筆した目標設定に関して、既に授業内容には盛り込まれていたため、内容の根本的な修正は行っていない。

保健統計学特論

本科目の授業内容に関して、3月の申請の段階では、基本統計量をしっかりと理解しデータの見極めを中心に時間をかけて深く学び、実際に質問紙調査を行ってその入力等を経験するようにプログラムしていたが、是正意見を受け、大学院のレベルとしては不十分だと判断されたのではないかと考えた。そこで、学生が看護研究を行う上で必要となる可能性のある、基本的な基本統計量、記述統計の内容から、各種検定や推定、また因子分析や主成分分析などの分析についても網羅する内容に改めた。また、到達目標に関しても、授業内容に沿うよう修正した。

看護病態学特論

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては問題ないと考えられたが、3項目に掲げている「看護を計画できる」という点を踏まえた授業内容の記述がなく、内容としてやや説明不足だと考え、看護実践と病態を関連させるための内容を盛り込むよう修正を行った。

看護教育学特論

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては問題ないと考えた。また授業内容も大きな問題はないと考えたが、授業内容欄の表現の仕方を整え、担当の2名の教員のうち、その回の主担当者を上段に表記することで、学生が相談等をしやすいよう配慮し、修正を行った。

地域包括ケア論

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては問題ないと考えた。一方、授業内容については、項目のみの記載となっているなど、学生の視点からは具体的な内容が解りにくい回が後半に見られたため、内容や授業方法を加筆し修正を行った。

看護コンサルテーション論

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては問題ないと考えた。一方、授業内容については、大項目のみの記載となっているなど、学生の視点からは具体的な内容がわかりにくい回が大半であったため、具体的内容や授業方法を加筆した。また、授業の順番として、最初の4回で概要を学び、第5・6回目で自身の課題に目を向け、第7・8・9回目に熟達したコンサルテーション能力をケアの現場で発揮しているCNS(非常勤講師)を迎えて、その実践について学び、その後自身の事例を挙げて討論するという順番に変更し、目標達成に向けて効果的に学べるよう修正を行った。

フィジカルアセスメント論

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院としての目標設定が不十分だと考え、授業概要を踏まえ、さらに地域での看護実践を行うことを意識した内容に改めた。

また、授業内容に関しての説明不足により、本大学院で着目している「地域での看護実践」を意識したものであることが明記されていなかったり、学生が授業内容を想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、地域や在宅でのケアを目指していることや、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が目標を定め、授業内容を把握できるよう意図した修正を行った。

地域イノベーション看護論Ⅰ

到達目標及び授業内容に関して、説明不足により学生が授業内容を想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、到達目標の専門用語を伝わりやすいよう配慮するとともに、授業内容に関しても、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。また、第2・3回については、概論的内容であることを示し、テキストや参考文献を追加することで、学習内容が理解しやすくなるよう意図して加筆した。

地域イノベーション看護論Ⅱ

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては問題ないと考えた。一方、授業内容については、第2回の内容が先の「地域イノベーション看護論Ⅰ」の内容と同様となっていたため修正し、到達目標との整合性が取れるよう改めた。また、第11回から14回については教授の指導の下で、准教授が中心となって講義を担当することになるため、主担当の名前を入れ替え、学生へ具体的な内容や授業体制が伝わるよう意図して、修正を行った。また、自己学習のため、参考文献に、先の「地域イノベーション看護論Ⅰ」と同様のものを提示した。

地域メンタルヘルス看護論Ⅰ

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては問題ないと考えた。一方、授業内容については、説明不足により、学生が授業内容を想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。

地域メンタルヘルス看護論Ⅱ

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては問題ないと考えた。一方、授業内容については、説明不足により、学生が授業内容を想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。

母性看護学特論

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては問題ないと考えた。一方、授業内容については、説明不足により、学生が授業内容を想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。

第14・15回の内容については、看護実践経験のある助教が中心となって授業を担当するため、その主担当者を上段に記載するよう修正した。

小児看護学特論

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては問題ないと考えた。一方、授業内容については、説明不足により、学生が授業内容を想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。

国際看護特論

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては問題ないと考えた。一方、授業内容については、説明不足により、学生が授業内容を想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。

国際地域保健展開論

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては問題ないと考えた。一方、授業内容については、説明不足により、学生が授業内容を想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。

看護教育育成演習Ⅰ

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては概ね問題ないと考えたが、カリキュラム編成について学ぶという点を追加し、授業内容で抑えるべき重要な点を目標で提示することとした。

一方、授業内容については、目標達成のための実践(体験)の時間がやや不足していると考えられたため、講義の2回分を他の講義時間と合わせて行い、演習の時間を2回増やすこととした。また説明不足により、学生がどのような時期にどのような演習を行うのか、想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。

看護教育育成演習Ⅱ

到達目標に関して、看護学の修士を修める大学院の目標としては概ね問題ないと考え、簡単な加筆で意味を添える程度の修正とした。一方、授業内容については、目標達成のための実践(体験)の時間がやや不足していると考えられたため、講義の2回分を他の講義時間と合わせて行い、演習の時間を2回増やすこととした。また説明不足により、学生がどのような時期にどのような演習を行うのか、想起しにくい表記に留まっている部分が見受けられたため、より具体的な内容や授業の進行の方法を表示することで、学生が授業内容を把握できるよう意図して修正を行った。

特別研究Ⅰ

担当教員を明示せずに、大学院全体で共通した内容としていたため、学生からはどのような研究内容なのか解り難いことが予測された。そこで、4つの選択コース(「地域イノベーション看護コース」「地域メンタルヘルス看護コース」「地域家族子育て支援看護コース」「国際地域看護コース」)ごとにシラバスを作成する形式(各コース2ページ、計8ページ)に変更し、担当教員とその研究内容等が、理解しやすいよう修正した。

また、審査意見2を踏まえた「設置の趣旨等を記載した書類」の変更より、第28・29回に研究計画書発表会を記載し、倫理審査のヒアリングについては27回の一回のみ、まとめについても30回の一回のみと変更した。

特別研究Ⅱ

担当教員を明示せずに、大学院全体で共通した内容としていたため、学生からはどのような研究内容なのか解り難いことが予測された。そこで、4つの選択コース(「地域イノベーション看護コース」「地域メンタルヘルス看護コース」「地域家族子育て支援看護コース」「国際地域看護コース」)ごとにシラバスを作成する形式(各コース2ページ、計8ページ)に変更し、担当の教員とその研究内容等が、理解しやすいよう修正した。

また、本科目は本大学院での学びの集大成となるべき科目であるため、大学院の趣旨を踏まえた到達目標として、「自身の専門性を活かした地域への貢献」という視点を加筆記載した。

(新旧対照表) シラバス(授業計画)

新旧対照表 目次

授業科目の名称	頁
看護理論	6
看護研究方法論	10
Glocal Nursing Field Work	14
看護倫理学特論	18
保健統計学特論	22
看護病態学特論	26
看護教育学特論	30
地域包括ケア論	34
看護コンサルテーション論	38
フィジカルアセスメント論	42
地域イノベーション看護論Ⅰ	46
地域イノベーション看護論Ⅱ	50
地域メンタルヘルス看護論Ⅰ	54
地域メンタルヘルス看護論Ⅱ	58
母性看護学特論	62
小児看護学特論	66
国際看護特論	70
国際地域保健展開論	74
看護教育育成演習Ⅰ	78
看護教育育成演習Ⅱ	82
特別研究Ⅰ	86
特別研究Ⅱ	102

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 看 護 理 論			担当教員 E-mail	近田敬子, 前田隆子	
開講年次	1 年 前期	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	看護において中範囲理論を活用することは、看護の質を高め、さらに看護を発展させることができると言われている。確かに、看護現象の記述や説明、そして予測しやすく、実践的研究にも活用できるという特徴がある。しかしその理論は、日本で開発されたものは少なく、わが国での検証が必須である。そのためにも、まず理論と出会い、概念を咀嚼しながら、実践に活用し得る手立てを考えられるよう学びを深める。					
到達目標	・看護実践のための中範囲理論の特性を踏まえつつ、発動性発揮モデルを教材とした概念整理を行い、その概念化過程の知識が理解できる。 ・危機理論を学習し、その対処法に繋げるストレス・コーピング理論、そして保健信念モデルなどの概念整理をして、実践のどのような場面に有効か理解できる。 ・さらに、看護実践につながるアタッチメント理論、家族看護理論等の概念を説明・分析し、地域における看護実践・看護研究・看護教育へ適用する姿勢や考え方が身につく。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	授業ガイダンス 文献紹介 ・看護の実践・教育・研究・管理などで活用している看護理論（環境・ニーズ・適応・ケアリング・システム・人間関係など）の全体像 ・代表的な理論の概念整理				講義	近田 前田
2	看護で繁用されている中範囲理論の特徴の把握 ・看護で繁用されている中範囲理論の実践的有効性 ・学生が活用してきた理論の概念化				講義 討議	近田
3	Maslow A H の欲求階層説を基盤にした発動性の発揮モデルの探求と概念整理				講義 討議	近田
4	発動性の発揮モデルの中の、看護の場面における承認の概念分析 ・自己実現に関連する自己教育力や自己効力感の概念				講義 討議	近田
5	危機の概念整理 ・学生の経験（実践事例）を通した危機モデル（フィンク・アギュララとメディック・ゴーラン等）の理解				プレゼン 討議	近田
6	ストレス・コーピング理論の概念整理 ・学生の経験（実践事例）を通した実践での理論活用の可能性の討議（地域社会的な心理との関連を含めて） ・社会慣習や地域文化などの背景を踏まえた活用の限界についての討議				プレゼン 討議	近田
7	保健信念モデルの概念整理 ・予防活動という看護支援に関連した学生の実践事例の理論活用の可能性 ・地域社会的な心理との関連に関する討議				プレゼン 討議	近田
8	文献的・帰納的に理解した各理論の看護研究での活用（分担してクリティーク）				討議	近田



科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	近田敬子, 前田隆子	
授業科目名	看 護 理 論					
開講年次	1 年 前期	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	看護において中範囲理論を活用することは、看護の質を高め、さらに看護を発展させることができると言われている。確かに、看護現象の記述や説明、そして予測しやすく、実践的研究にも活用できるという特徴がある。しかしその理論は、日本で開発されたものは少なく、わが国での検証が必須である。そのためにも、まず理論と出会い、概念を咀嚼しながら、実践に活用し得る手立てを考えられるよう学びを深める。					
到達目標	・看護実践のための理論導入を経て、発動性発揮モデルを教材とした概念整理を行い、その過程の知識が理解できる。 ・危機理論を学習し、その対処法に繋げるストレス・コーピング理論、そして保健信念モデルなどの概念整理をして、実践のどのような場面に有効か理解できる。 ・さらに、看護実践につながるアタッチメント理論、家族看護理論等の概念を説明・分析し、実践・研究・教育への適用が理解できる。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1	授業ガイダンス 文献紹介 看護の実践・教育・研究・管理などで活用し得る看護理論の種類、および各理論の概念整理をするために必要な知識を理解する。				講義	近田 前田
2	看護で繁用されている中範囲理論の特徴を把握し、その有効性を理解する。				講義 討議	近田
3	Maslow A H の欲求階層説を基盤にした発動性の発揮モデルを探求し、概念整理を行う。				講義 討議	近田
4	発動性の発揮モデルの中の、看護の場面における承認の概念分析を試みる。				講義 討議	近田
5	危機の概念整理をするとともに、実践事例を通して危機モデルの理解を深める。				プレゼン 討議	近田
6	ストレス・コーピング理論の概念整理をするとともに、実践事例を通して、実践での活用の可能性を理解する。限界をも導く。				プレゼン 討議	近田
7	保健信念モデルの概念整理を行うとともに、予防活動という看護支援との関連で実践事例をとおして理解を深める。				プレゼン 討議	近田
8	以上の理論を文献的・帰納的に理解してきた。これらの理論がどのように看護研究で扱われているかを 分担してクリティークする。				討議	近田

回	授業内容	授業方法	担当者
9	アタッチメント理論の概念整理 ・ 学生の経験した実践事例の紹介と理論活用の可能性	講義	前田
10	アタッチメント理論の実践に関連する文献クリティーク ・ クリティークした文献のプレゼンテーションと討議	発表 討議	前田
11	家族システム理論の概念整理 ・ 学生の経験した実践事例の紹介と理論活用の可能性	講義	前田
12	家族システム理論の実践に関連する文献クリティーク ・ クリティークした文献のプレゼンテーションと討議	発表 討議	前田
13	家族ストレス対処理論の概念整理 ・ 学生の経験した実践事例の紹介と理論活用の可能性	講義	前田
14	家族ストレス対処理論の実践に関連する文献クリティーク ・ クリティークした文献のプレゼンテーションと討議	発表 討議	前田
15	9～14回で紹介した理論が看護研究で扱われている文献のクリティーク ・ クリティークした文献の討議 ・ 看護理論と看護実践、看護研究への取り扱いに関するまとめ	討議	前田
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	前半の5・6・7回および後半の10・12・14回の実践事例に関する内容は、事前に学生が準備し、教材提供をもとにディスカッションで進める。その後、前半後半ごとに課題内容をまとめてレポートする。		
テキスト	・ Julia B. George 編：南裕子・野島佐由美・近藤房恵他訳：看護理論集 より高度な看護実践のために、日本看護協会出版会 2013		
参考文献	・ 野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論、メヂカルフレンド社、2013		
評価方法	レポート 50%、プレゼンテーション 50%		
注意事項	事前に配布する文献がある場合は読んで出席する。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	アタッチメント理論の概念整理をするとともに、実践事例を通して、実践での活用について紹介する。	講義	前田
10	アタッチメント理論の実践に関連する文献をクリティークする	発表 討議	前田
11	家族システム理論の概念整理をするとともに、実践事例を通して、実践での活用について紹介する。	講義	前田
12	家族システム理論の実践に関連する文献をクリティークする	発表 討議	前田
13	家族ストレス対処理論の概念整理をするとともに、実践事例を通して、実践での活用について紹介する	講義	前田
14	家族ストレス対処理論の実践に関連する文献をクリティークする	発表 討議	前田
15	紹介した理論が看護研究で扱われている文献をクリティークする	討議	前田
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	前半の5・6・7・回の実践事例に関する内容は、事前に学生が準備し、教材提供をもとにディスカッションで進める。その後、課題内容をまとめてレポートする。		
テキスト	適宜、資料を配布する		
参考文献	・Julia B. George 編：南裕子・野島佐由美・近藤房恵他訳：看護理論集 より高度な看護実践のために、日本看護協会出版会 2013 ・野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論、メジカルフレンド社、2013		
評価方法	レポート 50%、プレゼンテーション 50%		
注意事項	事前に配布する文献がある場合は読んで出席する		

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 看護研究方法論			担当教員 E-mail	田中響, 小村三千代, 荒川満枝	
開講年次	1 年 前期	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数 (単位数)	30 (2)			
授業の概要	研究的な視点から地域の看護に関する課題を見出し、論理的に解決する力を持つ実践者の育成を目指し、看護研究の方法について学ぶ。看護学における研究の意義、研究課題のとらえ方、文献のクリティークおよび活用の仕方、倫理的配慮などの基本を学んだ上で、各研究方法の特徴を踏まえて自らの看護研究を計画・実施するために、量的・質的研究デザイン両者の概要とデータ収集・分析のプロセス、必要となる研究方法を学修する。					
到達目標	- 研究問題や仮説、概念、概念枠組みなどの基本的な用語を実践的に修得・活用し、看護実践のエビデンスやケアの発展のために研究課題を提起できる。 - 質的・量的研究を行うためのデザインの概要・データ収集・分析のプロセスを概説し、自身の研究課題に関する先行研究をクリティークできる。 - 看護研究を行う上での倫理的課題について、各倫理指針の意図をふまえながら、自身の研究を行う上での倫理的課題を見据えることができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	授業ガイダンス - 看護研究を行う意義および看護学と看護実践の発展を支える科学的根拠の提示の重要性の討議 - 実際の学生の看護研究経験や看護実践経験より討議				講義	田中
2	研究に関する基本的用語の修得 研究問題、研究目的、仮説、概念、概念枠組み、研究デザイン、研究方法、研究計画、研究倫理などの用語の概要				講義	田中
3	文献クリティークの方法の概説 - 図書館の文献検索システムを利用した文献検索方法の概説と実際 - 文献クリティークの方法の概要 - クリティークする文献の選択 (第 12 回までに自身でクリティークを進め、第 13 回で教員に相談し、第 14・15 回でプレゼンテーション実施)				講義 演習	田中
4	質的研究 1 質的研究とは？ データの収集の方法や、収集したデータの信頼性、妥当性、信憑性やバイアス				講義	小村
5	質的研究 2 データの解釈・整理の仕方、帰納法的思考法や演繹法的思考法、概念化				講義	小村
6	質的研究 3 質的研究の具体例として、先行研究論文についてのクリティーク				講義 演習	小村
7	量的研究 1 データの収集の方法や、収集したデータの信頼性、妥当性、信憑性やバイアス				講義	荒川



科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	田中響, 小村三千代, 荒川満枝	
授業科目名	看護研究方法論					
開講年次	1 年 前期	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	研究的な視点から地域の看護に関する課題を見出し、論理的に解決する力を持つ実践者の育成を目指し、看護研究の方法について学ぶ。看護学における研究の意義、研究課題のとらえ方、文献のクリティークおよび活用の仕方、倫理的配慮などの基本を学んだ上で、各研究方法の特徴を踏まえて自らの看護研究を計画・実施するために、量的・質的研究デザイン両者の概要とデータ収集・分析のプロセス、必要となる研究方法を学修する。					
到達目標	・研究問題や仮説、概念、概念枠組みなどの基本的な用語を修得し、活用できる。 ・質的・量的研究を行うための、デザインの概要・データ収集・分析のプロセスを概説できる。 ・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について、その意図が理解できる。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1	授業ガイダンス 看護研究を行う意義についての討議				講義	田中
2	研究に関する基本的用語の修得 研究問題、仮説、概念、概念枠組み				講義	田中
3	文献検索方法の概説と実際 文献クリティークの方法 クリティークする文献の選択				講義 演習	田中
4	質的研究 1 質的研究とは？ データの収集の方法や、収集したデータの信頼性、妥当性、信憑性やバイアスについて				講義	小村
5	質的研究 2 データの解釈・整理の仕方、帰納法的思考法や演繹法的思考法、概念化について				講義	小村
6	質的研究 3 質的研究の具体例の解釈				講義	小村
7	量的研究 1 データの収集の方法や、収集したデータの信頼性、妥当性、信憑性やバイアスについて				講義	荒川
8	量的研究 2 データの解釈・整理の仕方、統計手法の用い方についての概要				講義	荒川

回	授業内容	授業方法	担当者
8	量的研究 2 ・データやその分析の表現方法としての表やグラフの解釈・整理の仕方、統計手法の使い方についての概要	講義	荒川
9	量的研究 3 ・質問紙調査を用いて行った量的研究の具体例として、先行研究論文のクリティーク	講義 演習	荒川
10	量的研究 4 ・実験研究を用いて行った量的研究の具体例として、先行研究論文のクリティーク	講義 演習	荒川
11	研究倫理 1 研究倫理の歴史 ・社会から求められる看護研究とその研究倫理についての討論	講義 演習	荒川
12	研究倫理 2 ・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の成立の背景と進化 ・看護研究の特殊性と社会からの期待 ・自身の研究課題についての研究倫理	講義	荒川
13	文献クリティークの実施 ・研究問題の明確化や研究方法・結果の理解 ・理解の難しい点を明確にし、指導教官と討議	演習	田中
14	クリティークした文献の紹介（プレゼンテーションと討議）1 ・学生の研究課題に関連した文献のクリティークについての発表と討議	演習	田中
15	クリティークした文献の紹介（プレゼンテーションと討議）2 ・学生の研究課題に関連した文献のクリティークについての発表と討議	講義	田中
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	自身で文献検索し、選択した論文のクリティークや、そのプレゼンテーション準備のための時間が必要になります。計画的に進めてください。		
テキスト	・D. F. ポーリット, C. T. ベック (著), 近藤 潤子(翻訳); 看護研究 第2版—原理と方法, 2010, 医学書院 ・その他適宜資料を配布します。		
参考文献	・黒田 裕子他 (翻訳); バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版 —評価・統合・エビデンスの生成, 2015, エルゼビア・ジャパン ・坂下玲子ほか、看護研究、医学書院、2016		
評価方法	プレゼンテーション 50%, レポート 30%, 授業中の発言など授業貢献度 20%		
注意事項	指導教員とコミュニケーションをとりながら、自身の研究テーマについて考慮しながら学修してください。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	量的研究 3 質問紙調査を行う研究の具体例の解釈	講義	荒川
10	量的研究 4 実験研究の具体例の解釈	講義	荒川
11	研究倫理 1 研究倫理の歴史 社会から求められる研究倫理についての討論	講義	荒川
12	研究倫理 2 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」	講義	荒川
13	文献クリティークの実施 1	演習	田中
14	文献クリティークの実施 2	演習	田中
15	クリティークした文献の紹介（プレゼンテーション）	講義	田中
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	自身で検索し、選択した論文のクリティークや、そのプレゼンテーション準備のための時間が必要になります。		
テキスト	特に指定しません。適宜資料を配布します。		
参考文献	D. F. ポーリット, C. T. ベック (著), 近藤 潤子(翻訳); 看護研究 第2版—原理と方法, 2010, 医学書院 黒田 裕子他 (翻訳); バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版 —評価・統合・エビデンスの生成, 2015, エルゼビア・ジャパン 坂下玲子ほか、看護研究、医学書院、2016		
評価方法	プレゼンテーション 50%, レポート 30%, 授業中の発言など授業貢献度 20%		
注意事項	指導教員とコミュニケーションをとりながら、自身の研究テーマについて考慮しながら学修してください。		

科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	近田敬子, 矢倉紀子, 田中響, 内海知子, 古都昌子, 安田美彌子, 中川康江, 前田隆子, 小村三千代, 荒川満枝, 石橋文枝, 稲田千明, 佐々木晶子, 小石真子, 藤原美智子, 鈴立恭子
授業科目名	Glocal Nursing Field Work				
開講年次	1 年 前期	必修・選択	必修	科目等履修生 ほか受入（受入可能人数）	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	30 (2)		
授業の概要	看護の対象の健康課題について、生活する地域の状況を含めて対応できる能力の醸成のため、フィールドにおいて地域の文化・社会的な特性や住民の生活実態の中で対象者の健康課題の分析と改善策、また健康に関する強みをも検討する過程を経て、対象や地域の健康課題に取り組むための論理的思考力と課題解決の技法を学修する。				
到達目標	・フィールドとして選択した地域の文化・社会的特性・住民の生活について説明できる。 ・フィールドとして選択した地域の健康課題と強みを理解し、地域の健康課題の解決策について説明できる。 ・選択したフィールドへの効果的な関わり方について、説明することができる。				
授業計画					
回	授業内容			授業方法	担当者
1	オリエンテーション ・研究活動と実践について ・「まちの保健室」の概要 ・学生自身の学修内容（選択コース）に適合するフィールドの選択 〔地域イノベーション看護コース〕 指導教員：近田敬子, 矢倉紀子, 田中響, 内海知子, 古都昌子, 石橋文枝, 小石真子, 稲田千明, 佐々木晶子 ・「まちの保健室」 拠点型：毎月第3水曜日午後実施 準拠点型・出前型：前年度の3月には概ね計画が定まるが、年度初めより適宜追加になる。 〔地域メンタルヘルス看護コース〕 指導教員：安田美彌子, 中川康江 ・「まちの保健室」 拠点型：毎月第3水曜日午後実施 準拠点型・出前型：前年度の3月には概ね計画が定まるが、年度初めより適宜追加になる。 〔地域家族子育て支援看護コース〕 指導教員：前田隆子, 小村三千代, 鈴立恭子 ・「まちの保健室」子育て支援事業：前年度の3月には概ね計画が定まるが、年度初めより適宜追加になる。 〔国際地域看護コース〕 指導教員：荒川満枝, 藤原美智子 ○国内のまちの保健室 ・「グローバルまちの保健室」：前年度の3月には概ね計画が定まるが、年度初めより適宜追加になる。 ○海外のフィールド ・フィリピン共和国のサント・トマス大学看護学部の学部教育（地域看護）のフィールド（サント・トマス大学との前年度の調整によって期間を決定する。） ※サント・トマス大学看護学部の指導体制は以下の通り コーディネーター：Asst. Prof. Elizabeth D. CORTEZ, RN, MAN 地域看護担当：Assoc. Prof. Marica G. ESTRADA, Ph.D., RN. Asst. Prof. Gian Carlo S. TORRES, Ph.D., MAN, RN			講義	担当者 全員



科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	近田敬子, 矢倉紀子, 田中響, 安田美彌子, 中川康江, 前田隆子, 小村三千代, 荒川満枝, 石橋文枝, 稲田千明, 佐々木晶子, 小石真子, 井田史子, 藤原美智子, 鈴木恭子	
授業科目名	Glocal Nursing Field Work					
開講年次	1 年 前期	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	看護の対象の健康課題について、生活する地域の状況を含めて対応できる能力の醸成のため、フィールドにおいて地域の文化・社会的な特性や住民の生活実態の中で対象者の健康課題の分析と改善策、また健康に関する強みをも検討する過程を経て、対象や地域の健康課題に取り組むための論理的思考力と課題解決の技法を学修する。					
到達目標	・フィールドとして選択した地域の文化・社会的特性・住民の生活について説明できる。 ・フィールドとして選択した地域の健康課題を理解し、その解決策について説明できる。 ・選択したフィールドへの効果的な関わり方について、説明することができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1	オリエンテーション 実践と研究について、「まちの保健室」の概要				講義	担当者 全員
2	領域ごとにフィールドワークの計画策定 計画発表				講義 演習	担当者 全員
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	鳥取県内または海外でフィールドワークを展開 以下より各領域の学修内容に適合するフィールドを選択する ・「まちの保健室」 ・「まちの保健室」子育て支援事業 ・「グローバルまちの保健室」 ・フィリピン共和国のサント・トーマス大学看護学部の学部教育（地域看護）のフィールド 実施されている看護の活動の現場を見学および倫理的な配慮をしたうえで、現場・現地の看護関係者のアドバイスを受けながら活動の実践を行う。途中各領域の担当教員の指導の下、活動計画を修正しながら行う。また、記録を作成し、途中、記録方法に関して修正も行う。最終的には、活動内容についてレポートを提出する。 フィールドワークは、相当時間（22 時間）実施する。 海外でのフィールドワークのみで演習する場合は概ね 5 日間とし、サント・トーマス大学との前年度の調整によって期間を決定する。サント・トーマス大学看護学部の指導体制は以下の通り コーディネーター：Asst. Prof. Elizabeth D. CORTEZ, RN, MAN 地域看護担当： Assoc. Prof. Marica G. ESTRADA, Ph.D., RN. Asst. Prof. Gian Carlo S. TORRES, Ph.D., MAN, RN				演習	各領域 担当者 全員

回	授業内容	授業方法	担当者
2	学生が選択した領域ごとに、フィールドワークの計画策定および計画発表	講義 演習	担当者 全員
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	3回目以降は鳥取県内または海外でフィールドワークを展開 【活動のポイント】 ・各フィールドで、看護専門職として「健康」をキーワードに住民や地域への貢献を試みる。 ・各フィールドの文化・社会的特性・住民の生活について事前調査をし、学生・教員を交えて討論し、その予測を踏まえて実際に活動する。 ・活動後に対象とした住民や地域の健康課題とともにその強みについて考察する。 ・健康課題解決の方策（まちの保健室等の運営方法など）について立案し、実際に運営または提案する。 ・活動や考察内容を研究活動に発展させる。 【展開方法】実施されている看護の活動の現場を見学および倫理的な配慮をしたうえで、現場・現地の看護関係者のアドバイスを受けながら活動の実践を行う。途中各領域の担当教員の指導の下、活動計画を修正しながら行う。 【記録・報告】活動内容は、自身で工夫した記録に残す。途中、記録方法の修正も行う。最終的には、活動内容について、目的・目標や計画を踏まえたレポートを提出する。 【活動時間】フィールドワークは、1年前期期間中に相当時間（22時間）実施する。海外でのフィールドワークのみで演習する場合は概ね5日間とする。	演習	各領域 担当者 全員
14 15	フィールドワーク内容の報告とまとめ ・フィールドワークの全体プレゼンテーション ・各フィールドの特性や健康課題の特徴、介入方法等に関する共有化 ・選択したフィールドへの効果的な関わり方、看護活動の意味、看護職者の役割についての討論	講義 演習	担当者 全員
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	活動の振り返りを行い、言語化し、各担当教員と適宜討論を繰り返しましょう。		
テキスト	特に教科書は使用しません。		
参考文献	適宜提示します。		
評価方法	レポート 30%、演習内容 40%、プレゼンテーション 20%、発言内容など授業貢献度 10%		
注意事項	海外研修も含め、交通費・宿泊費等は自己負担です。		

回	授業内容	授業方法	担当者
14	フィールドワーク内容の報告とまとめ 各領域でのフィールドワークの内容を、プレゼンテーションし、各フィールドの特性や健康課題の特徴、介入方法等に関して共有するとともに、看護活動の意味、看護職者の役割についての討論を行う。	講義 演習	担当者 全員
15			
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	活動の振り返りを行い、言語化し、各担当教員と適宜討論を繰り返しましょう。		
テキスト	適宜提示します		
参考文献	適宜提示します		
評価方法	レポート 30%、演習内容 40%、プレゼンテーション 20%、発言内容など授業貢献度 10%		
注意事項	海外研修も含め、交通費・宿泊費等は自己負担です		

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 看護倫理学特論			担当教員 E-mail	安藤泰至, 宮芝智子, 笠城典子		
開講年次	1 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)				
授業の概要	看護倫理・生命倫理の歴史的変遷と、倫理の概念や理論を理解した上で、高度先端医療から地域包括医療の現場、健康推進の現場まで様々な医療・保健の場面で見られる倫理的課題について学ぶ。学修にあたっては、看護の現場における複雑な倫理的な問題や葛藤に関わる事例を通して、内省・意思決定・言語化により倫理的判断能力を修得する。						
到達目標	・生命倫理の歴史的変遷、原則的概念や理論を看護専門職の立場から理解する。 ・看護実践上の様々な倫理的課題について、関わる人々のそれぞれの立場を踏まえて論じ、倫理的調整のプロセスのありかたを理解する。 ・自身の関わる看護の現場において生じる倫理的課題に関して、他者と討論しながら問題解決を図る方策を考えることができる。						
授業計画							
回	授業内容					授業方法	担当者
1	イントロダクション ・医療と倫理—その関係の多面性— ・本科目を通しての学びについて					講義	安藤
2	「インフォームド・コンセント」をめぐる歴史と、日本の生命倫理 ・医療の倫理や生命倫理学(バイオエシックス)にとって重要な綱領や宣言の潮流、その背景と意味					講義	安藤
3	医療とコミュニケーション—医療者—患者関係を問い直す— ・インフォームド・コンセント ・患者が看護者（医療者）に求めるもの					講義	安藤
4	医療者の守秘義務と個人情報保護 ・医療現場での情報保護の基本と実際					講義	安藤
5	医療者と「患者の人権」 ・医療プロフェッションと患者の人権擁護 ・患者の自己決定権					講義	安藤
6	人間の生の多層性 ・終末期医療、高度先進医療や生殖医療という医療の発展の中でのひとの生命、生活、人生、いのち					講義	安藤
7	生命倫理問題における「当事者」とは何か ・医療の現場における様々な立場					講義	安藤
8	生命倫理に関するまとめ（討論） ・自身の医療・看護の現場における立場やプロフェッション ・患者・住民の立場					講義	安藤



科目番号	〇〇〇〇			担当教員	安藤泰至, 宮芝智子, 笠城典子	
授業科目名	看護倫理学特論			E-mail		
開講年次	1 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	看護倫理・生命倫理の歴史的変遷と、倫理の概念や理論を理解した上で、高度先端医療から地域包括医療の現場、健康推進の現場まで様々な医療・保健の場面で見られる倫理的課題について学ぶ。学修にあたっては、看護の現場における複雑な倫理的な問題や葛藤に関わる事例を通して、内省・意思決定・言語化により倫理的判断能力を修得する。					
到達目標	・生命倫理の歴史的変遷、原則的概念や理論を看護専門職の立場から理解する。 ・看護実践上の様々な倫理的課題について、関わる人々のそれぞれの立場を踏まえて論じ、倫理的調整のプロセスのありかたを理解する。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	イントロダクション 医療と倫理ーその関係の多面性ー				講義	安藤
2	「インフォームド・コンセント」をめぐる歴史と、日本の生命倫理				講義	安藤
3	医療とコミュニケーションー医療者ー患者関係を問い直すー				講義	安藤
4	医療者の守秘義務と個人情報保護				講義	安藤
5	医療者と「患者の人権」				講義	安藤
6	人間の生の多層性				講義	安藤
7	生命倫理問題における当事者とは何か				講義	安藤
8	生命倫理に関する討論				講義	安藤

回	授業内容	授業方法	担当者
9	先端医療と制度をめぐる生命倫理 1 ・ 遺伝子診断・治療・遺伝カウンセリングの実際	講義	笠城
10	先端医療と制度をめぐる生命倫理 2 ・ 遺伝子診断・治療とそのカウンセリングに関わる倫理的課題についての討論	講義	笠城
11	専門職の倫理 ・ 専門職の倫理綱領、看護業務基準と倫理実践 ・ 保健師助産師看護師法と倫理	講義	宮芝
12	看護倫理の事例検討 1 ・ 倫理分析の方法と専門領域の事例による分析の試みと、討論	講義	宮芝
13	看護倫理の事例検討 2 ・ 専門領域の事例にみる看護倫理(プレゼンテーション) ・ 学生の実際の看護実践に関するプレゼンテーションと、意見交換、自身の倫理的調整の考察	講義	宮芝
14	看護倫理の事例検討 3 ・ 専門領域の事例にみる看護倫理(プレゼンテーション) ・ 学生の実際の看護実践に関するプレゼンテーションと、意見交換、自身の倫理的調整の考察	講義	宮芝
15	講義のまとめと今後の課題	講義	宮芝
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	自身の専門領域における倫理に関する事例のプレゼンテーション準備と、毎回の講義内容をリンクさせながら学習を進めてほしい。倫理の問題を、専門用語を適切に使用して、論理的に論じられるよう、参考文献等で準備をすること。		
テキスト	・ 看護実践の倫理第3版 倫理的意思決定のためのガイド Ethics in Nursing Practice A Guide to Ethical Decision Making Third Edition サラ T. フライ メガン-ジェーン・ジョンストン 著 片田 範子・山本あい子 訳 ・ その他適宜資料を提示する。		
参考文献	適宜提示する。		
評価方法	レポート 30%、プレゼンテーション 50%、授業中の発言などの授業貢献度 20%		
注意事項	事前自己学習や討論などを交えて多角的に検討する。積極的な授業参加を期待している。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	先端医療と制度をめぐる生命倫理 1 遺伝子診断・治療・遺伝カウンセリングの実際	講義	笠城
10	先端医療と制度をめぐる生命倫理 2 遺伝子診断・治療とそのカウンセリングに関わる倫理的課題	講義	笠城
11	専門職の倫理 専門職の倫理綱領，看護業務基準と倫理実践， 保健師助産師看護師法と倫理	講義	宮芝
12	看護倫理の事例検討 1 倫理分析の方法と専門領域の事例による分析の試み	講義	宮芝
13	看護倫理の事例検討 2 専門領域の事例にみる看護倫理(プレゼンテーション)	講義	宮芝
14	看護倫理の事例検討 3 専門領域の事例にみる看護倫理(プレゼンテーション)	講義	宮芝
15	講義のまとめと今後の課題	講義	宮芝
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	自身の専門領域における倫理に関する事例のプレゼンテーション準備と、毎回の講義内容をリンクさせながら学習を進めてほしい。倫理の問題を、専門用語を適切に使用して、論理的に論じられるよう、参考文献等で準備をすること。		
テキスト	特に指定しないが、適宜提示する		
参考文献	・看護実践の倫理第3版 倫理的意思決定のためのガイド Ethics in Nursing Practice A Guide to Ethical Decision Making Third Edition サラ T. フライ メガン-ジェーン・ジョンストン 著 片田 範子・山本あい子 訳など ・適宜提示する		
評価方法	レポート 30%、プレゼンテーション 50%、授業中の発言などの授業貢献度 20%		
注意事項	事前自己学習や討論などを交えて多角的に検討する。積極的な授業参加を期待している。		

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 保 健 統 計 学 特 論			担当教員 E-mail	細田武伸, 黒沢洋一	
開講年次	1 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	可 (2 名)
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	研究能力の向上に寄与する科目の一つであるが、保健医療分野における科学的実践活動及び研究で使用される主要な統計学的手法と解析法を取り上げ、目的に応じたデータ解析を実践するための知識と方法を学修する。学修の際は、SPSS や Excel を駆使し、実際に統計処理を行う経験をする。					
到達目標	・ 基本統計量、記述統計の基本を理解し、医療・保健データの概要を表現できる。 ・ データを見極め、適切な検定および推定、または分析の手法の選択ができる。 ・ 検定や推定、分析の結果から、データの持つ意味を適切に判断し、考察を導くことができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	授業ガイダンス ・ 本学の情報機器の使用について (セキュリティ等) ・ 看護研究と統計				講義	細田 黒沢
2	表計算ソフト (Excel)、SPSS の使い方の概要 ・ データの種類、母集団、標本、中心極限定理				講義	黒沢 細田
3	Excel や SPSS の活用 1 ・ 代表値や基本統計量、記述統計、推定、信頼区間				講義	黒沢 細田
4	Excel や SPSS の活用 2 ・ 2 つのグループの代表値の比較 (t 検定、Wilcoxn 符号順位検定、Mann-Whitney の U 検定)				講義	黒沢 細田
5	Excel や SPSS の活用 3 ・ クロス表の検定 (χ^2 検定、一元配置分散分析)				講義	黒沢 細田
6	Excel や SPSS の活用 4 ・ 相関係数、散布図の作成、回帰				講義	黒沢 細田
7	Excel や SPSS の活用 5 ・ 生存分析 (カプランマイヤー法)				講義	黒沢 細田
8	Excel や SPSS の活用 6 ・ 相対危険度、寄与危険度、オッズ比、回帰分析				演習	黒沢 細田

科目番号	〇〇〇〇			担当教員	荒川満枝, 細田武伸	
授業科目名	保健統計学特論			E-mail		
開講年次	1 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	可 (2 名)
授業形態	講義	時間数 (単位数)	30 (2)			
授業の概要	研究能力の向上に寄与する科目の一つであるが、保健医療分野における科学的実践活動及び研究で使用される主要な統計学的手法と解析法を取り上げ、目的に応じたデータ解析を実践するための知識と方法を学修する。学修の際は、SPSS や Excel を駆使し、実際に統計処理を行う経験をする。					
到達目標	・質問紙調査実施の基本的な手法が身につく。 ・基本統計量、記述統計の基本を理解し、医療・保健データの概要を表現できる。 ・データを見極め、適切な検定および推定手法の選択ができる。 ・検定や推定の結果から、データの持つ意味を適切に判断し、考察を導くことができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	授業ガイダンス 本学の情報機器の使用について (セキュリティ等) 看護研究と統計				講義	荒川 細田
2	質問紙調査の企画 (課題提示) 表計算ソフト (Excel) の使い方 (課題提示) グラフの読み方・使い方				講義	荒川 細田
3	表計算ソフト (Excel) の使い方 (課題) のプレゼンテーション 質問紙の検討				講義	荒川 細田
4	質問紙の検討 (プレゼンテーション) データの種類				講義	荒川 細田
5	代表値 基本統計量の出し方、記述統計				講義	荒川 細田
6	2 つのグループの代表値の比較 信頼区間				講義	荒川 細田
7	相関係数 クロス表の検定 質問紙調査の実施とデータ入力 (課題提示)				講義	荒川 細田
8	質問紙調査の実施とデータ入力				演習	荒川 細田

回	授業内容	授業方法	担当者
9	Excel や SPSS の活用 7 ・多変量解析の概念と実際	演習	黒沢 細田
10	Excel や SPSS の活用 8 ・主成分分析の概念と実際	演習	黒沢 細田
11	Excel や SPSS の活用 9 ・因子分析の概念と実際	講義 演習	黒沢 細田
12	統計データの解釈 1 ・日本の保健統計データについての解釈	講義 演習	細田
13	統計データの解釈 2 ・鳥取県や近隣の件（または学生の希望する地域）の統計データについての解釈	講義	細田
14	臨床・臨地研究データの読解 1 ・統計データを使った先行研究のクリティーク ・プレゼンテーションおよび討論	講義	細田
15	臨床・臨地研究データの読解 2 ・統計データを使った先行研究のクリティーク ・プレゼンテーションおよび討論	講義	細田
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	毎回、何らかの課題を提示します。課題を解決しながら統計手法を身につけましょう。		
テキスト	・石村貞夫他；よくわかる統計学 看護医療データ編，東京図書，2015 ・その他、授業の際に適宜資料を配布します。		
参考文献	・新谷歩；今日から使える 医療統計，2015，医学書院 ・浅井隆；いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ 第1巻 まずは統計アレルギーを克服しよう！，2010，アトムス ・焼山 和憲；看護統計テクニック基本からパス分析まで，2003，医歯薬出版		
評価方法	プレゼンテーション 50%、レポート 30%、授業中の発言など授業貢献度 20%		
注意事項			

回	授業内容	授業方法	担当者
9	質問紙調査実施とデータ入力（プレゼンテーション） データ解析（課題提示）	演習	荒川 細田
10	データ解析実施と結果報告の準備	演習	荒川 細田
11	質問紙調査の結果発表と講評 1 レポート課題の確認	講義 演習	荒川 細田
12	質問紙調査の結果発表と講評 2 レポート課題の確認	講義 演習	荒川 細田
13	相対危険度、寄与危険度、オッズ比 回帰分析 サンプルサイズ	講義	荒川 細田
14	臨床研究データの読解	講義	荒川 細田
15	日本または地域の保健統計の読解	講義	荒川 細田
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	毎回、何らかの課題を提示します。課題を解決しながら統計手法を身につけましょう。興味のあるテーマで質問紙調査を試みましょう。		
テキスト	新谷歩；今日から使える 医療統計，2015，医学書院		
参考文献	浅井隆；いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ 第1巻 まずは統計アレルギーを克服しよう！，2010，アトムス 焼山 和憲；看護統計テクニック基本からパス分析まで，2003，医歯薬出版		
評価方法	プレゼンテーション 50%、レポート 30%、授業中の発言など授業貢献度 20%		
注意事項	データ分析の時間等、課外の学習時間も必要となります。また Excel をあまり使ったことがない方は、事前にプレレクチャーしますので、申し出てください。		

科目番号	〇〇〇〇			担当教員	荒川満枝、早川大輔		
授業科目名	看護病態学特論			E-mail			
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	可（2 名）	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30（2）				
授業の概要	看護職者の視点で、対象の病態生理学的な変化や生理機能の異常、治療による変化について観察・アセスメント・判断するための基盤となる知識を修得する。病態生理の理解にあたっては、その病態や異常状態の成り立ちを器官・組織・細胞・物質のそれぞれのレベルで理解し看護に積極的に活用できるようにする。						
到達目標	・ 組織・細胞レベルで疾病を理解し、説明することができる。 ・ 病態を、疾患の回復過程との関係性を踏まえて説明することができる。 ・ 疾病の原因とその生体の反応を踏まえた看護を計画できる。						
授業計画							
回	授業内容					授業方法	担当者
1	オリエンテーション、身体の構造と機能の概要 ・ 履修者の実践と本科目の履修内容との関連性に関する討論 ・ 細胞、組織、器官の関係と恒常性の維持に関する知識・理解の確認と討論					講義	荒川 早川
2	総論：病理診断方法概要 ・ 正常細胞の形態や機能、細胞周期に関する理解（細胞・組織観察含む） ・ 組織観察の基本とその原理、意義 ・ 病理診断結果に関する看護の役割に関する討論					講義	早川 荒川
3	総論：細胞の障害と修復 ・ 変性、細胞死、酸化ストレス、萎縮・老化、肥大・過形成、化生（細胞・組織観察含む） ・ 創傷治癒 ・ 細胞の修復力に関する看護の役割に関する討論					講義	荒川 早川
4	総論：炎症と免疫、アレルギー、移植と再生医療 ・ 炎症の兆候と炎症反応、免疫担当細胞の働き（細胞・組織観察含む） ・ 各アレルギー反応における免疫担当細胞の働き ・ ES 細胞、iPS 細胞 ・ 炎症や免疫力に関する考え方と看護の役割についての討論					講義	荒川 早川
5	総論：感染症 ・ 主要な病原体と感染症、常在細菌叢と日和見感染、新興・再興感染症 ・ 感染症の治療と予防；抗菌薬と薬剤耐性、抗ウイルス薬 ・ 感染症における対症療法と看護の重要性の討論					講義	荒川 早川
6	総論：循環障害 ・ 静水圧と浸透圧に関する理解と浮腫、充血・うっ血 ・ 凝固系・線溶系の理解と出血、出血傾向、血栓、塞栓・梗塞 ・ ショック ・ 循環障害に関する看護の役割についての討論					講義	荒川 早川
7	総論：代謝障害 ・ 脂質代謝異常（細胞・組織観察含む）、タンパク質代謝異常（細胞・組織観察含む）、糖質代謝異常 ・ 代謝異常に関する身体の反応への看護の関わりについての討論					講義	早川 荒川



科目番号	〇〇〇〇			担当教員	荒川満枝, 早川大輔		
授業科目名	看護病態学特論			E-mail			
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	可 (2 名)	
授業形態	講義	時間数 (単位数)	30 (2)				
授業の概要	看護職者の視点で、対象の病態生理学的な変化や生理機能の異常、治療による変化について観察・アセスメント・判断するための基盤となる知識を修得する。病態生理の理解にあたっては、その病態や異常状態の成り立ちを器官・組織・細胞・物質のそれぞれのレベルで理解し看護に積極的に活用できるようにする。						
到達目標	・ 組織・細胞レベルで疾病を理解し、説明することができる。 ・ 病態を、疾患の回復過程との関係性を踏まえて説明することができる。 ・ 疾病の原因とその生体の反応を踏まえた看護を計画できる。						
授業計画							
回	授業内容					授業方法	担当者
1	オリエンテーション, 身体の構造と機能の概要 履修者の実践と本科目の履修内容との関連性に関する討論 細胞, 組織, 器官の関係と恒常性の維持に関する知識・理解の確認と討論					講義	荒川 早川
2	総論: 病理診断方法概要 ・ 正常細胞の形態や機能, 細胞周期に関する理解 (細胞・組織観察含む) ・ 組織観察の基本とその原理, 意義					講義	早川 荒川
3	総論: 細胞の障害と修復 ・ 変性, 細胞死, 酸化ストレス, 萎縮・老化, 肥大・過形成, 化生 (細胞・組織観察含む) ・ 創傷治癒					講義	荒川 早川
4	総論: 炎症と免疫, アレルギー, 移植と再生医療 ・ 炎症の兆候と炎症反応, 免疫担当細胞の働き (細胞・組織観察含む) ・ 各アレルギー反応における免疫担当細胞の働き ・ ES 細胞, iPS 細胞					講義	荒川 早川
5	総論: 感染症 ・ 主要な病原体と感染症, 常在細菌叢と日和見感染, 新興・再興感染症 ・ 感染症の治療と予防; 抗菌薬と薬剤耐性, 抗ウイルス薬 ・ 感染症における対症療法と看護の重要性					講義	荒川 早川
6	総論: 循環障害 ・ 静水圧と浸透圧に関する理解と浮腫, 充血・うっ血 ・ 凝固系・線溶系の理解と出血, 出血傾向, 血栓, 塞栓・梗塞 ・ ショック					講義	荒川 早川
7	総論: 代謝障害 ・ 脂質代謝異常 (細胞・組織観察含む) ・ タンパク質代謝異常 (細胞・組織観察含む) ・ 糖質代謝異常					講義	早川 荒川
8	総論: 腫瘍 1 ・ 腫瘍の定義・分類 (細胞・組織観察含む) ・ 悪性腫瘍の転移, 進行度 ・ 腫瘍の宿主への影響					講義	早川 荒川

回	授業内容	授業方法	担当者
8	総論：腫瘍 1 ・腫瘍の定義・分類（細胞・組織観察含む）、悪性腫瘍の転移、進行度、腫瘍の宿主への影響	講義	早川 荒川
9	総論：腫瘍 2 ・腫瘍の発生機序、がん遺伝子、がん抑制遺伝子、腫瘍の診断方法、腫瘍マーカー ・腫瘍の検査と腫瘍への治療や身体反応に関する看護の関わりについての討論	講義	早川 荒川
10	総論：先天異常と遺伝子異常、老化 ・染色体と遺伝子の構成についての理解と染色体異常、遺伝性疾患 ・胎児の障害 ・遺伝子の異常による疾患と遺伝子多型 ・遺伝看護に関する討論	講義	早川 荒川
11	各論：循環器、呼吸器の疾患の事例紹介と分析および看護計画 ・学生の特長分野の患者の病態に関するプレゼンテーションと討論 例) 動脈硬化症、心肥大、狭心症、心筋梗塞、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、肺がん等	講義	荒川 早川
12	各論：消化器疾患 の事例紹介と分析および看護計画 ・学生の特長分野の患者の病態に関するプレゼンテーションと討論 例) 消化器がん、クローン病、潰瘍性大腸炎、肝硬変、膵炎 等	講義	荒川 早川
13	各論：代謝疾患、内分泌疾患の事例紹介と分析および看護計画 ・学生の特長分野の患者の病態に関するプレゼンテーションと討論 例) 糖尿病、肥満 等	講義	早川 荒川
14	各論：脳・神経疾患、腎・泌尿器・生殖器・乳腺の事例紹介と分析および看護計画 ・学生の特長分野の患者の病態に関するプレゼンテーションと討論 例) アルツハイマー病、腎不全、ネフローゼ症候群、腎がん、前立腺がん、子宮筋腫、子宮頸がん 等	講義	早川 荒川
15	まとめと学びの振り返り	講義	荒川 早川
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	総論では、講義を通して患者の病態を細胞・組織レベルで理解するので、自身の理解の足りないところを発見し、自身の言葉で理解し、文献を読みこなす能力をつけていきましょう。各論では、各受講者の追究したい疾患を中心に、総論で得た知識を統合してプレゼンテーションし、ディスカッションを通して深く学ぶので、それを踏まえて準備してください。		
テキスト	大橋健一：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 1. 医学書院		
参考文献	・田中越郎：系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進 2. 医学書院、2018 ・下 正宗：正常画像と比べてわかる 病理アトラス 改訂版～全身がみえてくる！ 118 疾患 1000、羊土社、2015		
評価方法	プレゼンテーション 50%、授業中の討論内容 30%、レポート 20%		
注意事項			

回	授業内容	授業方法	担当者
9	総論：腫瘍2 ・腫瘍の発生機序，がん遺伝子，がん抑制遺伝子 ・腫瘍の診断方法，腫瘍マーカー	講義	早川 荒川
10	総論：先天異常と遺伝子異常，老化 ・染色体と遺伝子の構成についての理解と染色体異常，遺伝性疾患 ・胎児の障害 ・遺伝子の異常による疾患と遺伝子多型	講義	早川 荒川
11	各論：循環器，呼吸器の疾患の事例紹介と分析（プレゼンテーションと討議）動脈硬化症，心肥大，狭心症，心筋梗塞，肺炎，慢性閉塞性肺疾患，肺がん等	講義	荒川 早川
12	各論：消化器疾患 の事例紹介と分析（プレゼンテーションと討議）消化器がん，クローン病，潰瘍性大腸炎，肝硬変，膵炎 等	講義	荒川 早川
13	各論：代謝疾患，内分泌疾患の事例紹介と分析（プレゼンテーションと討議）糖尿病，肥満 等	講義	早川 荒川
14	各論：脳・神経疾患、腎・泌尿器・生殖器・乳腺の事例紹介と分析（プレゼンテーションと討議）脳梗塞，髄膜炎，アルツハイマー病，腎不全，ネフローゼ症候群，腎がん，前立腺がん，子宮筋腫，子宮頸がん等	講義	早川 荒川
15	まとめと学びの振り返り	講義	荒川 早川
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	総論では、講義を通して患者の病態を細胞・組織レベルで理解するので、自身の理解の足りないところを発見し、自身の言葉で理解し、文献を読みこなす能力をつけていきましょう。各論では、各受講者の追究したい疾患を中心に、総論で得た知識を統合してプレゼンテーションし、ディスカッションを通して深く学ぶので、それを踏まえて準備してください。		
テキスト	大橋健一：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 1. 医学書院		
参考文献	・田中越郎：系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進 2. 医学書院，2018 ・下 正宗：正常画像と比べてわかる 病理アトラス 改訂版～全身がみえてくる！ 118 疾患 1000，羊土社，2015		
評価方法	プレゼンテーション 50%，授業中の討論内容 30%，レポート 20%		
注意事項			

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 看護教育学特論			担当教員 E-mail	近田敬子, 田中 響	
開講年次	1 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	看護基礎教育および継続教育において、看護学の教授活動に必要な知識と技術を学ぶ。看護学を実践するための基盤となる看護教育を支える理論や、教育課程・教育組織、教育方法、研究の特徴を理解し、看護学教育における教授・学修活動についてディスカッションやプレゼンテーションを通して探求する。さらに、具体的な実践例を通して、看護学生や看護職への教育的な働きかけや環境づくり、リーダーシップのあり方等について理解する。また、我国の看護教育の歴史や諸外国の看護教育の現状も概観し、看護学教育の課題や将来について探求する。これらを通して、看護学および看護実践を発展させるための将来的展望を持つことができる。					
到達目標	・看護学を実践するための基盤となる看護教育を支える理論や、教育課程・教育組織、教育方法、研究の特徴を理解できる。 ・看護学教育における教授・学修活動について探求できる。 ・看護学および看護実践を発展させるための将来的展望を持つことができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	看護教育学とは ・看護教育学とは何かを専門的な基礎用語の整理				講義	近田 田中
2	看護教育制度の歴史的変遷と現状 ・教育課程・教育組織の特徴				講義	近田 田中
3	看護教育の基盤となる考え方 1 ・看護職者としての自身の志向性や展望の討論				講義	近田 田中
4	看護教育の基盤となる考え方 2 ・看護職者としての自身の志向性や展望の討論				講義	近田 田中
5	教育実践に関する理論 1 ・行動主義における学習理論				講義	近田 田中
6	教育実践に関する理論 2 ・認知主義・構成主義における学習理論				講義	近田 田中
7	教育実践に関する理論 3 ・状況主義における学習理論				講義	近田 田中
8	教育実践を省察する理論 1 ・技術的熟達者と省察的技術者				講義	田中 近田



科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 看護教育学特論			担当教員 E-mail	近田敬子, 田中 響	
開講年次	1 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	看護基礎教育および継続教育において、看護学の教授活動に必要な知識と技術を学ぶ。看護学を実践するための基盤となる看護教育を支える理論や、教育課程・教育組織、教育方法、研究の特徴を理解し、看護学教育における教授・学修活動についてディスカッションやプレゼンテーションを通して探求する。さらに、具体的な実践例を通して、看護学生や看護職への教育的な働きかけや環境づくり、リーダーシップのあり方等について理解する。また、我国の看護教育の歴史や諸外国の看護教育の現状も概観し、看護学教育の課題や将来について探求する。これらを通して、看護学および看護実践を発展させるための将来的展望を持つことができる。					
到達目標	・看護学を実践するための基盤となる看護教育を支える理論や、教育課程・教育組織、教育方法、研究の特徴を理解する。 ・看護学教育における教授・学修活動について探求できる。 ・看護学および看護実践を発展させるための将来的展望を持つことができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	看護教育学とは 看護教育学とは何かを専門的な基礎用語の整理を通して理解する。				講義	近田 田中
2	看護教育制度の歴史的変遷と現状 教育課程・教育組織の特徴についても理解する				講義	近田 田中
3	看護教育の基盤となる考え方 1 看護職者として自分がどうありたいかを討論を通して考える。				講義	近田 田中
4	看護教育の基盤となる考え方 2 看護職者として自分がどうありたいかを討論を通して考える。				講義	近田 田中
5	教育実践に関する理論 1 行動主義における学習理論				講義	近田 田中
6	教育実践に関する理論 2 認知主義・構成主義における学習理論				講義	近田 田中
7	教育実践に関する理論 3 状況主義における学習理論				講義	近田 田中
8	教育実践を省察する理論 1 技術的熟達者と省察的技術者				講義	近田 田中

回	授業内容	授業方法	担当者
9	教育実践を省察する理論 2 ・ 行為のなかの省察	講義	田中 近田
10	教育実践を高める学習方法 1 ・ 意識変容の学習	講義	田中 近田
11	教育実践を高める学習方法 2 ・ 共同学習	講義	田中 近田
12	経験型実習教育・教育的ケアリングモデル ・ 教育において学生と教師に求められることを考える。	講義	田中 近田
13	自身の看護実践における教育実践の省察 ・ 自身の看護実践の教育評価の討論	講義	田中 近田
14	外国における看護学教育	講義	近田 田中
15	講義のまとめ ・ 看護学および看護実践を発展させるための提案について考える。	講義	近田 田中
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	授業への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	・ グレッグ美鈴, 池西悦子 編; 看護教育学ー看護を学ぶ自分と向き合うー 改訂第 2 版, 南江堂, 2018 ・ その他必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	各担当者より適宜紹介する。		
評価方法	授業中の討議内容 40%、課題レポート 60%で総合的に評価する。		
注意事項			

回	授業内容	授業方法	担当者
9	教育実践を省察する理論 2 行為のなかの省察	講義	近田 田中
10	教育実践を高める学習方法 1 意識変容の学習	講義	近田 田中
11	教育実践を高める学習方法 2 共同学習	講義	近田 田中
12	経験型実習教育・教育的ケアリングモデル 教育において学生と教師に求められることを考える	講義	近田 田中
13	教育実践を省察する・教育評価	講義	近田 田中
14	外国における看護学教育	講義	近田 田中
15	講義のまとめ 看護学および看護実践を発展させるための提案について考える	講義	近田 田中
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	授業への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	各担当者より適宜紹介する。		
参考文献	各担当者より適宜紹介する。		
評価方法	授業中の討議内容 40%、課題レポート 60%で総合的に評価する。		
注意事項			

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 地 域 包 括 ケ ア 論			担当教員 E-mail	矢倉紀子, 安田美彌子	
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	地域包括ケアの創始から今日の展開まで、そのプロセスを辿りながら、政策としての地域包括ケアシステムの構築と、その制度化と実践における地域包括ケアの意義について先進的取り組みの事例を概観しつつ学修する。					
到達目標	・地域包括ケアシステムにおける看護職のあり方と課題が探求できる。 ・住み慣れた地域での生活上の安全・安心・健康を確保するために、保健・医療や看護のみならず介護、福祉サービスを含めた支援として包括的、有機的に連動して提供できる有効な地域包括ケアのシステム構築の方法が探求できる。 ・地域包括ケアの制度化と実践における有効な看護実践力とそのシステムの開発に向けた政策提言を試みて、提言実現化への課題を言語化できる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	オリエンテーション (授業の進め方について、プレゼンテーションの準備・実施について) ・地域包括ケアのはじまり				講義	矢倉 安田
2	地域包括ケアシステムにおける対象、特徴、看護活動 1 ・概要の説明と文献抄読				講義	矢倉 安田
3	地域包括ケアシステムにおける対象、特徴、看護活動 2 ・文献抄読および討論				講義	矢倉 安田
4	地域包括ケアシステムで用いる理論と基盤となる概念 1 ・概要の説明と文献抄読および討論 (高齢社会の現状と未来)				講義	矢倉 安田
5	地域包括ケアシステムで用いる理論と基盤となる概念 2 ・概要の説明と文献抄読および討論 (地域包括ケアの理念と5つの構成要素)				講義	矢倉 安田
6	地域包括ケアシステムにおける看護学の立場から追求すべき課題とその背景				講義	矢倉 安田
7	地域における看護活動の展開過程 1 ・先進的取り組みの事例に関する討論 (地域包括ケアシステム構築へ向けた取組事例から選択)				講義	矢倉 安田
8	地域における看護活動の展開過程 2 ・先進的取り組みの事例に関する討論 (地域包括ケアシステム構築へ向けた取組事例から選択)				講義	矢倉 安田



科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 地 域 包 括 ケ ア 論			担当教員 E-mail	矢倉紀子, 安田美彌子	
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	地域包括ケアの創始から今日の展開まで、そのプロセスを辿りながら、政策としての地域包括ケアシステムの構築と、その制度化と実践における地域包括ケアの意義について先進的取り組みの事例を概観しつつ学修する。					
到達目標	・地域包括ケアシステムにおける看護職のあり方と課題が探求できる。 ・住み慣れた地域での生活上の安全・安心・健康を確保するために、保健・医療や看護のみならず介護、福祉サービスを含めた支援として包括的、有機的に連動して提供できる有効な地域包括ケアのシステム構築の方法が探求できる。 ・地域包括ケアの制度化と実践における有効な看護実践力とそのシステムの開発に向けた政策提言をできるための知識と方法が学修できる。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1	地域包括ケアのはじまり 授業の進め方は、ゼミ形式を主とし、院生自身がプレゼンテーションした内容に基づいて検討していく。				講義	矢倉 安田
2	地域包括ケアシステムにおける対象、特徴、看護活動 1 概要の説明と文献抄読				講義	矢倉 安田
3	地域包括ケアシステムにおける対象、特徴、看護活動 2 文献抄読および討論				講義	矢倉 安田
4	地域包括ケアシステムで用いる理論と基盤となる概念 1 概要の説明と文献抄読および討論				講義	矢倉 安田
5	地域包括ケアシステムで用いる理論と基盤となる概念 2 概要の説明と文献抄読および討論				講義	矢倉 安田
6	地域包括ケアシステムにおける看護学の立場から追求すべき課題とその背景				講義	矢倉 安田
7	地域における看護活動の展開過程 1				講義	矢倉 安田
8	地域における看護活動の展開過程 2				講義	矢倉 安田

回	授業内容	授業方法	担当者
9	地域における看護活動の展開過程 3 ・先進的取り組みの事例に関する討論（地域包括ケアシステム構築へ向けた取組事例から選択）	講義	矢倉 安田
10	地域包括ケアシステムの構築を含めた支援方法 1 ・保健・医療・看護・介護・福祉等の包括的、有機的連動の事例（住民や関係団体・機関等との協働による包括的な支援体制づくりの取り組みの先進事例）	講義	矢倉 安田
11	地域包括ケアシステムの構築を含めた支援方法 2 ・保健・医療・看護・介護・福祉等の包括的、有機的連動の事例（住民や関係団体・機関等との協働による包括的な支援体制づくりの取り組みの先進事例）	講義	矢倉 安田
12	地域包括ケアシステムの構築を含めた支援方法 3 ・保健・医療・看護・介護・福祉等の包括的、有機的連動の意義と今後の展望	講義	矢倉 安田
13	地域のリソース創出・活性化のための支援方法 1 ・学生の所属する地域に関するリソース創出・活性化への提言の試みと討論	講義	矢倉 安田
14	地域のリソース創出・活性化のための支援方法 2 ・学生の所属する地域に関するリソース創出・活性化への提言の試みと討論	講義	矢倉 安田
15	講義のまとめ・プレゼンテーション	講義	矢倉 安田
授業時間外の学習 （事前・事後学習）	授業への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	教科書は特に指定しないが、各担当者より適宜資料を配布する。		
参考文献	各担当者より適宜紹介する。		
評価方法	学習状況 10%、プレゼンテーション 40%、レポート 50%で総合的に評価する。		
注意事項	授業の進め方は、ゼミ形式を主とし、院生自身がプレゼンテーションした内容に基づいて検討していく。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	地域における看護活動の展開過程 3	講義	矢倉 安田
10	地域包括ケアシステムの構築を含めた支援方法 1	講義	矢倉 安田
11	地域包括ケアシステムの構築を含めた支援方法 2	講義	矢倉 安田
12	地域包括ケアシステムの構築を含めた支援方法 3	講義	矢倉 安田
13	地域のリソース創出・活性化のための支援方法 1	講義	矢倉 安田
14	地域のリソース創出・活性化のための支援方法 2	講義	矢倉 安田
15	講義のまとめ・プレゼンテーション	講義	矢倉 安田
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	授業への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	各担当者より適宜紹介する。		
参考文献	各担当者より適宜紹介する。		
評価方法	学習状況 10%、プレゼンテーション 40%、レポート 50%で総合的に評価する。		
注意事項			

科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	安田美彌子, 中川康江, 池田牧	
授業科目名	看護コンサルテーション論					
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	専門看護師の重要な役割であるコンサルテーションに関する概念、技術を習得する。また、学生自身の専門領域におけるコンサルテーションを実践する際の課題について検討し、事例を分析、吟味しながら実践活動に応用できる能力を学習する。					
到達目標	・コンサルテーションの概念及び実践モデル、コンサルタントの役割、個人や組織を対象としたコンサルテーションのプロセスが理解できる。 ・特定領域（精神看護、がん看護など）の専門的知識、技術、体験に基づき、事例を分析、検討する能力が身につく。 ・コンサルテーション機能を実践する際の自己の課題を明確にし、課題解決の際の基礎的能力を習得する。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	科目ガイダンス ・看護コンサルテーションとは何かについての概観				講義	安田 中川
2	コンサルテーションのプロセス 1 ・コンサルテーションの定義、意義、歴史的背景、看護学との接点				講義	安田 中川
3	コンサルテーションのプロセス 2 ・コンサルテーションによる具体的介入方法、様々な場面、具体的展開のプロセス				講義	安田 中川
4	コンサルテーションのプロセス 3 ・コンサルテーションの評価、効果測定				講義	安田 中川
5	自己の課題に気づく 1 ・心理テスト、性格テストなどを利用した看護実践やコンサルテーションにおける自分自身の客観的把握				講義	中川 安田
6	自己の課題に気づく 2 ・自己の課題の気づきと対処法の検討				講義	中川 安田
7	専門看護師の役割と機能 1 ・CNSのコンサルテーション活動の具体的展開例				講義	池田 安田
8	専門看護師の役割と機能 2 ・CNSのコンサルテーション活動の具体的展開例の成果や問題点の理解				講義	池田 安田



科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 看護コンサルテーション論			担当教員 E-mail	安田美彌子, 中川康江, 池田 牧	
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	専門看護師の重要な役割であるコンサルテーションに関する概念、技術を習得する。また、学生自身の専門領域におけるコンサルテーションを実践する際の課題について検討し、事例を分析、吟味しながら実践活動に応用できる能力を学習する。					
到達目標	・コンサルテーションの概念及び実践モデル、コンサルタントの役割、個人や組織を対象としたコンサルテーションのプロセスを理解する。 ・特定領域（精神看護、がん看護など）の専門的知識、技術、体験に基づき、事例を分析、検討する能力を養う。 ・コンサルテーション機能を実践する際の自己の課題を明確にし、課題解決の際の基礎的能力を習得する。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	科目ガイダンス 看護コンサルテーションとは				講義	安田 中川
2	専門看護師の役割と機能 1				講義	池田 安田
3	専門看護師の役割と機能 2				講義	池田 安田
4	専門看護師の役割と機能 3				講義	池田 安田
5	コンサルテーションのプロセス 1				講義	安田 中川
6	コンサルテーションのプロセス 2				講義	安田 中川
7	コンサルテーションのプロセス 3				講義	安田 中川
8	臨床の場におけるコンサルテーションの実際（精神看護など）				講義	安田 中川

回	授業内容	授業方法	担当者
9	専門看護師の役割と機能 3 ・ CNS のコンサルテーション活動の具体的展開についての討議	講義	池田 安田
10	臨床におけるコンサルテーションの実際（精神看護など） ・ 学生自身の臨床体験をふまえた困難事例の討議	講義	安田 中川
11	臨床におけるコンサルテーションの実際（精神看護など） ・ 学生自身の臨床体験をふまえた困難事例の討議	講義	安田 中川
12	臨床におけるコンサルテーションの実際（精神看護など） ・ 文献抄読をふまえた自身の事例の検討	講義	安田 中川
13	臨床におけるコンサルテーションの実際（がん看護など） ・ 学生自身の臨床体験をふまえた困難事例の討議	講義	安田 中川
14	臨床におけるコンサルテーションの実際（がん看護など） ・ 文献抄読をふまえた自身の事例の検討	講義	中川 池田
15	臨床におけるコンサルテーションの実際 ・ これまで学んだ自己の課題や、検討した事例を踏まえたプレゼンテーション	講義	安田 中川
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	臨床の場で活動している専門看護師に仕事の特性、やりがい、問題点などをインタビューする。		
テキスト	・ 野末 聖香他；リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために，医歯薬出版，2004 ・ その他必要に応じて、講義の中で資料を配布する。		
参考文献	講義の中で適宜紹介する。		
評価方法	レポート 40%、授業態度 30%、プレゼンテーション 30%		
注意事項	自ら学ぶ姿勢を大切にしてほしい。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	臨床の場におけるコンサルテーションの実際（精神看護など）	講義	安田 中川
10	臨床の場におけるコンサルテーションの実際（精神看護など）	講義	安田 中川
11	臨床の場におけるコンサルテーションの実際（がん看護など）	講義	安田 中川
12	臨床の場におけるコンサルテーションの実際（がん看護など）	講義	中川 池田
13	臨床の場におけるコンサルテーションの実際（プレゼンテーション）	講義	安田 中川
14	自己の課題に気づく（心理テスト、性格テストなどを利用して）	講義	中川 安田
15	自己の課題の気づきと対処法の検討	講義	中川 安田
授業時間外 の学習 （事前・事後 学習）	臨床の場で活動している専門看護師に仕事の特性、やりがい、問題点などをインタビューする		
テキスト	講義の中で適宜紹介する		
参考文献	講義の中で適宜紹介する		
評価方法	レポート 40%、授業態度 30%、プレゼンテーション 30%		
注意事項	自ら学ぶ姿勢を大切にしてほしい		

科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	前田隆子, 内海知子, 石橋文枝, 稲田千明, 佐々木晶子, 藤原美智子	
授業科目名	フィジカルアセスメント論					
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	それぞれの地域で対象となる人や地域に対し、自立して看護実践ができること、自身の看護を論理的に展開し、他の看護職者や医療者と共有できることを意図し、看護の対象となる人の健康状態や身体の状態、生理機能の異常、疾病の状況について解剖生理学・病態生理学の知識を基盤に分析・統合し看護専門職の視点で成人、小児、母親をアセスメントする知識と技術を修得する。適宜高機能シミュレーター等を駆使して科目展開する。					
到達目標	・地域や在宅での看護専門職が行うフィジカルアセスメントの必要性和意味を理解できる。 ・自身の専門分野の対象理解に必要なフィジカルアセスメントの習熟した技術が身に着く。 ・地域で自立して行う看護実践に、習熟したフィジカルアセスメントの技術を活用できる。 ・習熟したフィジカルアセスメントの技術を他の看護職者や医療者と共有し、チーム医療に活用できる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	オリエンテーション (実習室の使用について) ・看護専門職による習熟したフィジカルアセスメントの意義 ・看護情報、看護判断、基本技術について				講義	前田 内海他
2	問診、面接の技法、フィジカルアセスメントの基本技術 ・学生自身の課題の抽出と討議				講義 演習	前田 内海他
3	成人のフィジカルアセスメント 1 ・循環器のアセスメント (循環機能の概要、地域や在宅療養における血圧測定) の技法				講義 演習	石橋 内海他
4	成人のフィジカルアセスメント 2 ・循環器のアセスメント (心機能の概要、問診、聴診、打診、触診) の技法				講義 演習	石橋 内海他
5	成人のフィジカルアセスメント 3 ・循環器のアセスメント (在宅療養で使用される心電図測定とその読み方) の技法 ・循環器のフィジカルアセスメントの必要性和活用				講義 演習	石橋 内海他
6	成人のフィジカルアセスメント 4 ・呼吸器のアセスメント (呼吸機能の概要、問診、聴診、打診、触診、検査と検査データ) の技法				講義 演習	石橋 内海他
7	成人のフィジカルアセスメント 5 ・呼吸器のアセスメント (呼吸機能検査と検査データ) の技法 ・呼吸器のフィジカルアセスメントの必要性和活用				講義 演習	石橋 内海他



科目番号	〇〇〇〇			担当教員	前田隆子, 石橋文枝, 稲田千明,	
授業科目名	フィジカルアセスメント論			E-mail	佐々木晶子, 藤原美智子	
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	それぞれの地域で対象となる人や地域に対し、自立して看護実践ができること、自身の看護を論理的に展開し、他の看護職者や医療者と共有できることを意図し、看護の対象となる人の健康状態や身体の状態、生理機能の異常、疾病の状況について解剖生理学・病態生理学の知識を基盤に分析・統合し看護専門職の視点で成人、小児、母親をアセスメントする知識と技術を修得する。適宜高機能シミュレーター等を駆使して科目展開する。					
到達目標	・自身の専門分野の対象理解に必要なフィジカルアセスメントの習熟した技術が身に着く。 ・地域や在宅での看護専門職が行うフィジカルアセスメントの必要性和意味を理解し、地域医療における対象理解の深化について、意見を述べることができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	オリエンテーション 看護専門職によるフィジカルアセスメントとは 看護情報、看護判断、基本技術について				講義	前田・ 石橋他
2	問診、面接の技法, フィジカルアセスメントの基本技術				講義と 演習	前田・ 石橋他
3	成人のフィジカルアセスメント1 循環器のアセスメント (循環機能の概要、地域や在宅における血圧測定とセルフケア)				講義と 演習	前田・ 石橋他
4	成人のフィジカルアセスメント2 循環器のアセスメント (心機能の概要、問診、聴診、打診、触診)				講義と 演習	前田・ 石橋他
5	成人のフィジカルアセスメント3 循環器のアセスメント (心電図測定とその読み方)				講義と 演習	前田・ 石橋他
6	成人のフィジカルアセスメント4 呼吸器のアセスメント (呼吸機能の概要、問診、聴診、打診、触診、検査と検査データ)				講義と 演習	前田・ 石橋他
7	成人のフィジカルアセスメント5 呼吸器のアセスメント (呼吸機能検査と検査データ)				講義と 演習	前田・ 石橋他
8	成人のフィジカルアセスメント6 代謝機能のアセスメント (身長・体重測定、体脂肪測定、メタボ健診データ)				講義と 演習	前田・ 石橋他

回	授業内容	授業方法	担当者
8	成人のフィジカルアセスメント 6 ・代謝機能のアセスメント（身長・体重測定、体脂肪測定、メタボ健診データ）の技法 ・代謝機能のフィジカルアセスメントの必要性和活用	講義 演習	石橋 内海他
9	成人のフィジカルアセスメント 7 ・消化機能のアセスメント（問診、聴診、打診、触診、検査と検査データ）の技法 ・消化機能のフィジカルアセスメントの必要性和活用	講義 演習	石橋 内海他
10	成人のフィジカルアセスメント 8 ・認知機能のアセスメント（問診、各検査と検査データの活用）の技法 ・認知機能のフィジカルアセスメントの必要性和活用	講義 演習	石橋 内海他
11	母性のフィジカルアセスメント 1 ・周産期のフィジカルアセスメントの技法 ・フィジカルアセスメントの必要性和活用	講義 演習	前田 内海他
12	母性のフィジカルアセスメント 2 ・周産期のフィジカルアセスメントの技法 ・フィジカルアセスメントの必要性和活用	講義 演習	前田 内海他
13	小児のフィジカルアセスメント ・小児の在宅患者に必要なフィジカルアセスメントの技法 ・フィジカルアセスメントの必要性和活用	講義 演習	前田 内海他
14	フィジカルアセスメント実施計画 ・学生の専門領域の事例ごとに、実施計画のプレゼンテーションと討論	講義	前田 内海他
15	まとめ ・看護専門職の行うフィジカルアセスメントの意味	講義	前田 内海他
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	実習室にある高機能シミュレーターや検査機器を活用してください。		
テキスト	藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド 第3版，学研メディカル秀潤社，2017		
参考文献	藤崎郁：フィジカルアセスメントをケアにつなげる，医学書院，2012 中西睦子監修：TACS シリーズ1 実践基礎看護学，建帛社，1999		
評価方法	実技 70%、プレゼンテーション 20%、発言などの授業貢献度 10%		
注意事項	実習室の使用に関しては、予約をお願いします。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	成人のフィジカルアセスメント7 消化機能のアセスメント（問診、聴診、打診、触診、検査と検査データ）	講義と演習	前田・石橋他
10	成人のフィジカルアセスメント8 認知機能のアセスメント（問診、各検査と検査データの活用）	講義と演習	前田・石橋他
11	母性・小児領域のフィジカルアセスメント1，2 周産期のフィジカルアセスメント	講義と演習	前田・石橋他
12		講義と演習	前田・石橋他
13	母性・小児領域のフィジカルアセスメント3	講義と演習	前田・石橋他
14	フィジカルアセスメント実施計画（事例ごとに計画を立て、プレゼンテーション）	講義	前田・石橋他
15	まとめ 看護専門職の行うフィジカルアセスメントの意味	講義	前田・石橋他
授業時間外の学習 （事前・事後学習）	実習室にある高機能シミュレーターの活用		
テキスト	適宜提示します。		
参考文献	藤崎郁：フィジカルアセスメントをケアにつなげる，医学書院，2012 中西睦子監修：TACS シリーズ1 実践基礎看護学，建帛社，1999		
評価方法	実技 70%、プレゼンテーション 20%、発言などの授業貢献度 10%		
注意事項	実習室の使用に関しては、予約をお願いします。		

科目番号	〇〇〇〇			担当教員	田中 響		
授業科目名	地域イノベーション看護論 I			E-mail			
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)				
授業の概要	医療・介護・予防・住まい・生活支援の 5 つの柱からなる地域包括ケアにおける様々なリソースを理解し、それらのリソースを活性化するための仕組みや実践について学修する。 その上で、急速に進行する超高齢社会を理解し、医療から終末期に至る在宅ケアの実践現場において、具体的かつ緻密な洞察力のもと、看護のあるべき未来の姿を追求する。						
到達目標	・地域包括ケアにおける様々なリソースを理解し、地域住民のための健康相談の場の開設や地域の健康づくりリーダー育成などの具体的な活動を通して、地域のリソースを活性化するための仕組みや実践について理解できる。 ・OODA(Observe 観察, Oriento 見当づけ, Decide 決断, Act 実行)ループを用いて鳥取県の地域リソースを活性化するための方策を考え、提言を試みることができる。 ・これからの看護に必要なイノベーションについて考えることができる。						
授業計画							
回	授業内容					授業方法	担当者
1	オリエンテーション，本講義のねらいと方法 ・イノベーションの基礎理論についての学び方 ・OODA ループの紹介と活用					講義	田中
2	イノベーションとは何か？ 1 ・イノベーションの概念と諸理論 ・イノベーションの具体例：(社会・経済活動を含めて) 文献抄読からの話題提供と討論					講義	田中
3	イノベーションとは何か？ 2 ・看護・医療・保健におけるイノベーション：文献抄読からの話題提供と討論					講義	田中
4	鳥取県の地域包括ケアにおけるリソースを考える 1 ・鳥取県の地域包括ケアの現状：今ある医療・介護・予防・住まい・生活支援のリソースについての討論					講義	田中
5	鳥取県の地域包括ケアにおけるリソースを考える 2 ・鳥取県の地域包括ケアの現状：今ある医療・介護・予防・住まい・生活支援のリソースについての討論					講義	田中
6	鳥取県の地域包括ケアにおけるリソースを考える 3 ・鳥取県の地域包括ケアの現状：解決したい課題と今あるリソースについての討論					講義	田中
7	地域におけるイノベーションの取り組み事例から考える 1 ・地域の高等教育機関が行う地域貢献事業としての「まちの保健室」 ・イノベーション事例としての分析					講義	田中
8	地域におけるイノベーションの取り組み事例から考える 2 ・鳥取県における「まちの保健室」事業の展開過程 ・イノベーション事例としての分析に関する文献抄読と討論					講義	田中



科目番号	〇〇〇〇			担当教員	田中 響	
授業科目名	地域イノベーション看護論Ⅰ			E-mail		
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	医療・介護・予防・住まい・生活支援の 5 つの柱からなる地域包括ケアにおける様々なリソースを理解し、それらのリソースを活性化するための仕組みや実践について学修する。 その上で、急速に進行する超高齢社会を理解し、医療から終末期に至る在宅ケアの実践現場において、具体的かつ緻密な洞察力のもと、看護のあるべき未来の姿を追求する。					
到達目標	・地域包括ケアにおける様々なリソースを理解し、それらのリソースを活性化するための仕組みや実践について理解できる。 ・これからの看護に必要なイノベーションについて考えることができる。 ・OODA を用いて地域リソースを活性化するための方策を考えることができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	オリエンテーション 本講義のねらいと方法／専門的スキルに関する基礎用語解説				講義	田中
2	イノベーションとは 学生自身の経験を発表するなかで、「イノベーションとは何か」についてまとめる。また「変革」とは何かについてもおおよその概念理解を図る。				講義	田中
3	日本の医療の課題を俯瞰する 文献抄読と討論				講義	田中
4	地域包括ケアにおけるリソースを考える 1 地域包括ケアに関わるリソースについて調べ、その事例検討を行い、討論する。				講義	田中
5	地域包括ケアにおけるリソースを考える 2 地域包括ケアに関わるリソースの創出・活性化についての文献抄読し、討論する。				講義	田中
6	地域包括ケアにおけるリソースを考える 3 地域包括ケアに関わるリソースの創出・活性化について、とりわけ鳥取県におけるイノベーションアイデアを討論する。				講義	田中
7	地域におけるイノベーションの取り組み事例から考える 1 地域の高等教育機関が行う地域貢献事業としての「まちの保健室」				講義	田中
8	地域におけるイノベーションの取り組み事例から考える 2 鳥取県における「まちの保健室」事業の展開過程				講義	田中

回	授業内容	授業方法	担当者
9	地域におけるイノベーションの取り組み事例から考える 3 ・「まちの保健室」参加・運営経験からの分析の視点に関する討論	講義	田中
10	地域におけるイノベーションの取り組み事例から考える 4 ・健康づくりリーダー養成講座「まめんなかえ師範塾」の起業にみるイノベーション	講義	田中
11	地域におけるイノベーションの取り組み事例から考える 5 ・健康づくりリーダー養成講座「まめんなかえ師範塾」の様相	講義	田中
12	地域におけるイノベーションの取り組み事例から考える 6 ・健康づくりリーダー養成講座「まめんなかえ師範塾」の展開	講義	田中
13	地域における看護イノベーションを準備する 1 ・実際に行われている企画である「まちの保健室」にどのように参加し、イノベーションしようとするのか、またどんな観点から評価を行うのかに関する OODA を用いた討論	講義	田中
14	地域における看護イノベーションを準備する 2 ・「まめんなかえ師範塾」に関してどのように参加し、イノベーションしようとするのか、またどんな観点から評価を行うのかに関する OODA を用いた討論	講義	田中
15	本講義で扱った内容全体の総括 ・学生自身のイノベーション体験や地域イノベーション看護のあり方とその修得	講義	田中
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	授業への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	・松下 博宣；医療看護イノベーション 組織に変化を起こす 2035 年生き残り戦略の教科書，メディカ出版，2017 ・その他必要に応じて講義中に資料を配布する。		
参考文献	・エベレット・ロジャーズ（著）三藤利雄（訳）；イノベーションの普及，翔泳社，2007 ・松村 啓史；ナイチンゲール、ドラッカー、クリステンセンに学ぶ看護イノベーション あなたも組織も元気になる 今日からできるアイデア満載！，メディカ出版，2017 ・山口 周；世界で最もイノベティブな組織の作り方，光文社新書，2013 ・その他、適宜紹介する。		
評価方法	学習状況 10%、プレゼンテーション 40%、レポート 50%で総合的に評価する。		
注意事項			

回	授業内容	授業方法	担当者
9	地域におけるイノベーションの取り組み事例から考える 3 健康づくりリーダー養成講座「まめんなかえ師範塾」の様相	講義	田中
10	地域におけるイノベーションの取り組み事例から考える 4 健康づくりリーダー養成講座「まめんなかえ師範塾」の展開	講義	田中
11	地域における看護イノベーションを準備する 実際に行われている企画にどのように参加し、イノベーションしようとするのか、また、何を観点として事後の検討会を行うのかについて、資料準備を通して理解を深める。	講義	田中
12	地域におけるイノベーションの体験と事後検討会 1 学生自身が地域の中で体験した経験を発表し、討論する。	講義	田中
13	地域におけるイノベーションの体験と事後検討会 2 学生自身が地域の中で体験した経験を発表し、討論する。	講義	田中
14	地域におけるイノベーションの体験と事後検討会 3 学生自身が地域の中で体験した経験を発表し、討論する。	講義	田中
15	本講義で扱った内容全体を総括し、学生自身のイノベーション体験や地域イノベーション看護のあり方とその習得についてまとめる。	講義	田中
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	授業への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	必要に応じて講義中に指示する。		
参考文献	必要に応じて講義中に指示する。		
評価方法	学習状況 10%、プレゼンテーション 40%、レポート 50%で総合的に評価する。		
注意事項			

科目番号	〇〇〇〇			担当教員	矢倉紀子, 小石真子	
授業科目名	地域イノベーション看護論Ⅱ			E-mail		
開講年次	2 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	地域包括ケアの担い手の様々な側面を理解するとともに、地域における医療・看護・介護・福祉及び行政の役割とあり方を考察する。さらに、地域包括ケアシステムの構築とその制度化と実践における有効な看護実践力とリーダーシップの発揮及びそのシステムのさらなる開発に向けた政策提言ができるための知識と方法を探求する。そして、地域の医療機関や市町村、地域住民、団体等と連携し、超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドやイノベーションマインドをもち、環境の変化を洞察しつつ、リソースを活性化させ、さらに新しいリソースを創出するといったイノベーションを起こし、未来の可能性を見出し広げるリーダーシップについて考究する。					
到達目標	・地域における医療・看護・介護・福祉及び行政の役割とあり方に関する考察を踏まえて政策提言案を立てることができる。 ・看護実践力とリーダーシップの発揮及びそのシステムの開発に向けた政策提言ができるための知識を身につけ、その方法の探求ができる。 ・地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドやイノベーションマインドを持つことができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	オリエンテーション ・本講義のねらいと方法／専門的技能に関する基礎用語解説				講義	矢倉 小石
2	イノベーションとは何か ・イノベーションの起こるとき ・イノベーターとイノベティブな組織 ・リーダーシップに関する文献抄読からの話題提供と討論				講義	矢倉 小石
3	ヘルスケアサービス・イノベーションを俯瞰する 1 ・ヘルスケアサービス・イノベーションの理解 ・ヘルスケアサービス・イノベーションの事例検討				講義	矢倉 小石
4	ヘルスケアサービス・イノベーションを俯瞰する 2 ・医療サービスの概観と事例検討				講義	矢倉 小石
5	ヘルスケアサービス・イノベーションを俯瞰する 3 ・社会的共通健康サービスのミクロ、メゾ、マクロからの考察				講義	矢倉 小石
6	看護サービス・イノベーションを考える ・文献抄読と討論				講義	矢倉 小石
7	サービス・エコシステムとしての地域包括ケアシステム 1 ・複雑な関係性、つながりによって構成される地域包括ケアシステムの討論				講義	矢倉 小石
8	サービス・エコシステムとしての地域包括ケアシステム 2 ・複雑な関係性、つながりによって構成される地域包括ケアシステムの討論				講義	矢倉 小石

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 地域イノベーション看護論Ⅱ			担当教員 E-mail	矢倉紀子, 小石真子	
開講年次	2 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	地域包括ケアの担い手の様々な側面を理解するとともに、地域における医療・看護・介護・福祉及び行政の役割とあり方を考察する。さらに、地域包括ケアシステムの構築とその制度化と実践における有効な看護実践力とリーダーシップの発揮及びそのシステムのさらなる開発に向けた政策提言ができるための知識と方法を探求する。そして、地域の医療機関や市町村、地域住民、団体等と連携し、超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドやイノベーションマインドをもち、環境の変化を洞察しつつ、リソースを活性化させ、さらに新しいリソースを創出するといったイノベーションを起こし、未来の可能性を見出し広げるリーダーシップについて考究する。					
到達目標	・地域における医療・看護・介護・福祉及び行政の役割とあり方が考察できる。 ・看護実践力とリーダーシップの発揮及びそのシステムの開発に向けた政策提言ができるための知識と方法が探求できる。 ・地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドやイノベーションマインドをもつことができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	オリエンテーション 本講義のねらいと方法／専門的スキルに関する基礎用語解説				講義	矢倉 小石
2	イノベーションとは 学生自身の経験を発表するなかで、「イノベーションとは何か」についてまとめる。また「変革」とは何かについてもおおよその概念理解を図る。				講義	矢倉 小石
3	ヘルスケアサービス・イノベーションを俯瞰する 1 ヘルスケアサービス・イノベーションを理解するとともにその事例検討を行う。				講義	矢倉 小石
4	ヘルスケアサービス・イノベーションを俯瞰する 2 医療サービスを概観し、その事例検討を行い討論する。				講義	矢倉 小石
5	ヘルスケアサービス・イノベーションを俯瞰する 3 社会的共通健康サービスをミクロ、メゾ、マクロから考える。				講義	矢倉 小石
6	看護サービス・イノベーションを考える 文献抄読と討論				講義	矢倉 小石
7	サービス・エコシステムとしての地域包括ケアシステム 1 複雑な関係性、つながりによって構成される地域包括ケアシステムについて討論する				講義	矢倉 小石
8	サービス・エコシステムとしての地域包括ケアシステム 2 複雑な関係性、つながりによって構成される地域包括ケアシステムについて討論する				講義	矢倉 小石

回	授業内容	授業方法	担当者
9	地域における看護イノベーションを準備する 1 ・これまでの講義内容を踏まえ、具体的な地域における看護イノベーションを企画・計画・発表 ・相互評価、計画案作成のスキルアップ	講義	矢倉 小石
10	地域における看護イノベーションを準備する 2 ・実際に行われている企画への参加、事後の検討会の評価方法に関する資料準備	講義	矢倉 小石
11	地域におけるイノベーションの体験と事後検討会 1 ・学生自身が地域の中で体験した経験の発表と討論	講義	小石 矢倉
12	地域におけるイノベーションの体験と事後検討会 2 ・学生自身が地域の中で体験した経験の発表と討論	講義	小石 矢倉
13	地域におけるイノベーションの体験と事後検討会 3 ・学生自身が地域の中で体験した経験の発表と討論	講義	小石 矢倉
14	地域におけるイノベーションの体験と事後検討会 4 ・学生自身が地域の中で体験した経験の発表と討論	講義	小石 矢倉
15	本講義で扱った内容全体の総括 ・地域イノベーション看護のあり方とその修得についてのまとめ	講義	矢倉 小石
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	授業への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	必要に応じて講義中に資料を配布する。		
参考文献	・エベレット・ロジャーズ（著）三藤利雄（訳）；イノベーションの普及，翔泳社，2007 ・松下 博宣；医療看護イノベーション 組織に変化を起こす 2035 年生き残り戦略の教科書 メディカ出版，2017 ・松村 啓史；ナイチンゲール、ドラッカー、クリステンセンに学ぶ看護イノベーション あなたも組織も元気になる 今日からできるアイデア満載！，メディカ出版，2017 ・山口 周；世界で最もイノベティブな組織の作り方，光文社新書，2013 ・その他、必要に応じて講義中に指示する。		
評価方法	学習状況 10%、プレゼンテーション 40%、レポート 50%で総合的に評価する。		
注意事項			

回	授業内容	授業方法	担当者
9	地域における看護イノベーションを準備する 1 これまでの講義内容を踏まえ、具体的な地域における看護イノベーションを企画・計画・発表し、相互評価を通して、計画案作成のスキルアップを図る。	講義	矢倉小石
10	地域における看護イノベーションを準備する 2 実際に行われている企画にどのように参加し、何を観点として事後の検討会を行うのかについて、資料準備を通して理解を深める。	講義	矢倉小石
11	地域におけるイノベーションの体験と事後検討会 1 学生自身が地域の中で体験した経験を発表し、討論する。	講義	矢倉小石
12	地域におけるイノベーションの体験と事後検討会 2 学生自身が地域の中で体験した経験を発表し、討論する。	講義	矢倉小石
13	地域におけるイノベーションの体験と事後検討会 3 学生自身が地域の中で体験した経験を発表し、討論する。	講義	矢倉小石
14	地域におけるイノベーションの体験と事後検討会 4 学生自身が地域の中で体験した経験を発表し、討論する。	講義	矢倉小石
15	本講義で扱った内容全体を総括し、地域イノベーション看護のあり方とその習得についてまとめる。	講義	矢倉小石
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	授業への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	必要に応じて講義中に指示する。		
参考文献	必要に応じて講義中に指示する。		
評価方法	学習状況 10%、プレゼンテーション 40%、レポート 50%で総合的に評価する。		
注意事項			

科目番号	〇〇〇〇			担当教員	安田美彌子	
授業科目名	地域メンタルヘルス看護論Ⅰ			E-mail		
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30（2）			
授業の概要	わが国における地域メンタルヘルス看護の現状を明らかにする。特に山陰、鳥取における地域メンタルヘルスの現状を学生の体験を語り合うことで、優れた点や問題となる点を明確にする。また、職場におけるメンタルヘルス不調者対策の現状や、若者に蔓延しつつある、ネット依存や違法薬物や危険ドラッグの現状と対策について学ぶ。					
到達目標	・山陰地方における地域メンタルヘルスの現状を 理解 できる。 ・メンタルヘルス不調者対策の現状を 理解 できる。 ・ネット依存や違法薬物依存の現状を知り、予防の可能性について検討する 能力が身につく 。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1	オリエンテーション ・地域メンタルヘルス看護論の進め方				講義	安田
2	山陰における地域メンタルヘルスの現状 ・精神障害者の現状に関する各種文献、保健統計資料の収集と活用				講義	安田
3	山陰における地域メンタルヘルスの現状 ・地域で生活する精神障害を抱えた人へ提供されている支援機関				講義	安田
4	山陰（またはそれ以外の学生の出身地）における地域メンタルヘルスの現状 ・地域で生活する精神障害を抱えた人へ提供されている支援制度				講義	安田
5	学生自身の体験・調査結果を統合し、プレゼンテーション ・プレゼンテーションの中で、山陰地域のメンタルヘルスの課題の明確化				講義	安田
6	山陰地方の地域メンタルヘルスの現状の背景となる、各種法律（精神保健福祉法、障害者総合支援法、社会保障制度）についての検討				講義	安田
7	山陰地方の地域メンタルヘルスの現状の背景となる、日本のメンタルヘルス対策を踏まえた社会情勢についての検討				講義	安田
8	山陰地方の地域メンタルヘルスの現状の背景となる、地域行政についての検討 ・第2回～8回までの知見や考察のまとめ				講義	安田



科目番号	〇〇〇〇			担当教員	安田美彌子	
授業科目名	地域メンタルヘルス看護論Ⅰ			E-mail		
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30（2）			
授業の概要	わが国における地域メンタルヘルス看護の現状を明らかにする。特に山陰、鳥取における地域メンタルヘルスの現状を学生の体験を語り合うことで、優れた点や問題となる点を明確にする。また、職場におけるメンタルヘルス不調者対策の現状や、若者に蔓延しつつある、ネット依存や違法薬物や危険ドラッグの現状と対策について学ぶ。					
到達目標	・山陰地方における地域メンタルヘルスの現状を知る。 ・メンタルヘルス不調者対策の現状を知る。 ・ネット依存や違法薬物依存の現状を知り、予防の可能性について検討する。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1	オリエンテーション 地域メンタルヘルス看護論の進め方と学生の役割				講義	安田
2	山陰における地域メンタルヘルスの現状を学ぶ。				講義	安田
3	学生の体験や、出身地における地域メンタルヘルスの現状を調査する。				講義	安田
4	学生の体験や、出身地における地域メンタルヘルスの現状を調査する。				講義	安田
5	体験発表、調査結果の発表を行い、地域メンタルヘルスの現状を明らかにする。				講義	安田
6	山陰地方の地域メンタルヘルスの現状の背景となる、社会情勢、地域行政、日本のメンタルヘルス対策における各種法律について検討する。				講義	安田
7	山陰地方の地域メンタルヘルスの現状の背景となる、社会情勢、地域行政、日本のメンタルヘルス対策における各種法律について検討する。				講義	安田
8	上記についてレポートにまとめる。				講義	安田

回	授業内容	授業方法	担当者
9	産業界におけるメンタルヘルス対策について歴史的経緯についての調査	講義	安田
10	産業界におけるメンタルヘルス対策の現状・対策についての調査	講義	安田
11	山陰地方の産業におけるメンタルヘルス対策について、歴史的経緯、現状、対策についての調査	講義	安田
12	山陰地方の産業におけるメンタルヘルスについて、日本の産業メンタルヘルスの情勢を踏まえてのプレゼンテーション ・第9回～11回までの知見や考察についてのまとめ	講義	安田
13	ネット依存、違法薬物依存の現状の調査 ・各種文献、保健統計資料の収集と活用	講義	安田
14	若者のネット依存、薬物依存の背景（養育環境、家族関係、友人関係など）についての検討	講義	安田
15	ネット依存、違法薬物依存、若者のネット依存、薬物依存の背景（養育環境、家族関係、友人関係など）について、山陰の状況・予防の可能性のプレゼンテーション ・第13回～15回までの知見や考察のまとめ	講義	安田
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	授業時間内で終わらないときは、休み期間などを利用して調査をすることになります。		
テキスト	使用しない。		
参考文献	必要に応じて別途紹介する。		
評価方法	レポート 40%、授業態度（プレゼンテーションを含む） 60%		
注意事項	調査などの自己学習を通して研究テーマを探索することになります。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	産業におけるメンタルヘルス対策について（その歴史、現状、対策）について調査する。	講義	安田
10	産業におけるメンタルヘルス対策について（その歴史、現状、対策）について調査する。	講義	安田
11	産業におけるメンタルヘルス対策について（その歴史、現状、対策）について調査する。	講義	安田
12	上記についてレポートにまとめる。（プレゼンテーション）	講義	安田
13	ネット依存、違法薬物依存の現状を調査する。	講義	安田
14	若者のネット依存、薬物依存の背景（養育環境、家族関係、友人関係など）について検討する。	講義	安田
15	上記についてレポートにまとめる。	講義	安田
授業時間外の学習 （事前・事後学習）	授業時間内で終わらないときは、休み期間などを利用して調査をすることになります。		
テキスト	必要に応じて別途紹介する。		
参考文献	必要に応じて別途紹介する。		
評価方法	レポート 40%、授業態度（プレゼンテーションを含む） 60%		
注意事項	調査などの自己学習を通して研究テーマを探索することになります。		

科目番号	〇〇〇〇			担当教員	安田美彌子, 中川康江	
授業科目名	地域メンタルヘルス看護論Ⅱ			E-mail		
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	地域メンタルヘルス看護論Ⅰを学んだうえで、わが国における地域メンタルヘルス看護のあるべき姿を検討する。精神病院を全廃したイタリアの歴史と現状を学び、我が国との違いを明らかにする。イタリアほどドラスティックでなくても、我が国でもべてるの家など先進的な試みがなされている現状を学び、今後の地域メンタルヘルス看護について、独自な見解を養う。					
到達目標	・バザーリア法（1978 年）によってイタリア地域精神医療に起きた変化が理解できる。 ・イタリアと日本の地域メンタルヘルスの違いが理解できる。 ・日本の先進的と言われる地域メンタルヘルスの現状を知り、山陰地方の地域メンタルヘルスに貢献できる力を養う。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1	オリエンテーション ・地域メンタルヘルス看護論の進め方				講義	安田 中川
2	イタリアの地域精神医療について 1 ・イタリアにおける精神病院からイタリア地域精神医療への移行について				講義	安田 中川
3	イタリアの地域精神医療について 2 ・イタリア地域精神医療の誕生とその基本理念について				講義	安田 中川
4	イタリアの地域精神医療について 3 ・トレント精神保健局、ファーレ・アッシエーメ（みんなでやろう）運動とU F Eについて				講義	安田 中川
5	イタリアの地域精神医療について 4 ・具体的な地域精神医療の実践例				講義	安田 中川
6	なぜ、イタリアで精神病院の全廃が可能であったか 1 ・日本の精神医療をイタリアとの比較				講義	安田 中川
7	なぜ、イタリアで精神病院の全廃が可能であったか 2 ・精神医療に関する地域での看護の役割について				講義	安田 中川
8	イタリアの地域精神医療の学びを山陰地方の地域メンタルヘルスに活用する立場でのプレゼンテーション ・これまでの知見や考察のまとめ				演習	安田 中川



科目番号	〇〇〇〇			担当教員	安田美彌子，中川康江	
授業科目名	地域メンタルヘルス看護論Ⅱ			E-mail		
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30（2）			
授業の概要	地域メンタルヘルス看護論Ⅰを学んだうえで、わが国における地域メンタルヘルス看護のあるべき姿を検討する。精神病院を全廃したイタリアの歴史と現状を学び、我が国との違いを明らかにする。イタリアほどドラスティックでなくても、我が国でもべてるの家など先進的な試みがなされている現状を学び、今後の地域メンタルヘルス看護について、独自な見解を養う。					
到達目標	・バザーリア法（1978 年）によってイタリア地域精神医療に起きた変化を学ぶ。 ・イタリアと日本の地域メンタルヘルスの違いを学ぶ。 ・日本の先進的と言われる地域メンタルヘルスの現状を知り、山陰地方の地域メンタルヘルスに貢献できる力を養う。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	オリエンテーション 地域メンタルヘルス看護論の進め方と学生の役割				講義	安田 中川
2	イタリアの地域精神医療について学ぶ。				講義	安田 中川
3	イタリアの地域精神医療について学ぶ。				講義	安田 中川
4	イタリアの地域精神医療について学ぶ。				講義	安田 中川
5	イタリアの地域精神医療について学ぶ。				講義	安田 中川
6	なぜ、イタリアで精神病院の全廃が可能であったかを検討する。				講義	安田 中川
7	なぜ、イタリアで精神病院の全廃が可能であったかを検討する。				講義	安田 中川
8	上記についてレポートにまとめる。				演習	安田 中川

回	授業内容	授業方法	担当者
9	べてるの家の試み（当事者研究）について 1 ・ べてるの家の歴史や経緯について文献や各種資料からの理解	講義	安田中川
10	べてるの家の試み（当事者研究）について 2 ・ べてるの家の理念や当事者研究について文献や各種資料からの理解	講義	安田中川
11	地域移行の試みについて 1 ・ べてるの家の試みから地域移行についての考察	講義	安田中川
12	地域移行の試みについて 2 ・ べてるの家の試みから山陰地方の地域移行についての考察	講義	安田中川
13	新しい試みをしている地域メンタルヘルス看護の見学および討論 1	講義 演習	安田中川
14	新しい試みをしている地域メンタルヘルス看護の見学および討論 2	講義 演習	安田中川
15	まとめ ・ 地域におけるメンタルヘルス看護について自分の考えのプレゼンテーション	講義	安田中川
授業時間外の学習 （事前・事後学習）	授業時間内で終わらないときは、休み期間などを利用して調査をすることになります。		
テキスト	・ レンツォ・デ・ステファニ, ヤコボ・トマーゾ, 花野 真栄(訳) ; イタリア精神医療への道 バザーリアがみた夢のゆくえ, 日本評論社, 2015 ・ 浦河べてるの家 ; べてるの家の「非」援助論—そのままでいいと思えるための 25 章（シリーズ ケアをひらく）, 医学書院, 2002 ・ 浦河べてるの家 ; べてるの家の「当事者研究」（シリーズ ケアをひらく）, 医学書院, 2005		
参考文献	必要に応じて別途紹介する。		
評価方法	レポート 40%、授業態度（プレゼンテーションを含む） 60%		
注意事項	自ら考え、自ら行動してください（ただし、行動する前に相談してください）。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	べてるの家試み（当事者研究）について学ぶ。	講義	安田中川
10	べてるの家試み（当事者研究）について学ぶ。	講義	安田中川
11	地域移行の試みについて学ぶ。	講義	安田中川
12	地域移行の試みについて学ぶ。	講義	安田中川
13	新しい試みをしている地域メンタルヘルス看護の見学および討論。	講義 演習	安田中川
14	新しい試みをしている地域メンタルヘルス看護の見学および討論。	講義 演習	安田中川
15	メンタルヘルス看護について自分の考えをプレゼンテーションする。	講義	安田中川
授業時間外の学習 （事前・事後学習）	授業時間内で終わらないときは、休み期間などを利用して調査をすることになります。		
テキスト	イタリア精神医療への道（バザーリアが見た夢のゆくへ）、日本評論社 べてるの家の「非」援助論、医学書院		
参考文献	必要に応じて別途紹介する。		
評価方法	レポート 40%、授業態度（プレゼンテーションを含む） 60%		
注意事項	自ら考え、自ら行動してください（ただし、行動する前に相談してください）。		

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 母性看護学特論			担当教員 E-mail	前田隆子，鈴木恭子，稲田千明	
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	可（3 名）
授業形態	講義	時間数(単位数)	30（2）			
授業の概要	地域の子どもが健康に成長することを支援するために、妊娠・出産・産褥期の女性への地域生活の支援や、育児中の保護者の健康支援を意図した研究を行う事の出来る看護職者を育成するために、本科目では、地域で生きる女性の生涯を通じた健康保持、増進の支援に必要な視点として、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念を基に、女性のライフステージ各期の生物学的、心理学的、社会文化学的特徴、および健康状態に影響する諸要因、母性看護学領域の倫理的課題について論じるとともに、看護介入の方法について学習する。					
到達目標	・ 課題に関する文献のクリティークができる。 ・ 資料をもとにリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から女性のライフステージ各期の健康上の課題を議論し、支援法が提示できる。 ・ 地域における母子支援の現状を分析し、研究方法が提示できる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念 ・ 論文のクリティーク法				講義	前田 鈴木
2	思春期の性（1） 性感染症 ・ 性感染症をテーマに学術論文や学術雑誌、成書等の文献からの話題提起と討論				講義	前田 鈴木
3	思春期の性（2） 望まない妊娠 ・ 望まない妊娠をテーマに学術論文や学術雑誌、成書等の文献からの話題提起と討論				講義	前田 鈴木
4	生殖医療と倫理的課題（1） ・ 生殖医療と倫理的課題をテーマに学術論文や学術雑誌、成書等の文献からの話題提起と討論				講義	前田 鈴木
5	生殖医療と倫理的課題（2） ・ 前回の討論をふまえ、さらに知識を深めた支援法の提示				講義	前田 鈴木
6	周産期におけるケア 早期母子接触 ・ 早期母子接触をテーマに学術論文や学術雑誌、成書等の文献からの話題提起と討論				講義	前田 鈴木
7	障害のある子どもの出生と継続支援（1） ・ 障害のある子どもの出生と継続支援をテーマに学術論文や学術雑誌、成書等の文献からの話題提起と討論				講義	前田 鈴木
8	障害のある子どもの出生と継続支援（2） ・ 前回の討論をふまえ、さらに知識を深めた支援法の提示				講義	前田 鈴木



科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 母 性 看 護 学 特 論			担当教員 E-mail	前田隆子，鈴立恭子，稲田千明	
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	可（3 名）
授業形態	講義	時間数(単位数)	30（2）			
授業の概要	地域の子どもが健康に成長することを支援するために、妊娠・出産・産褥期の女性への地域生活の支援や、育児中の保護者の健康支援を意図した研究を行う事の出来る看護職者を育成するために、本科目では、地域で生きる女性の生涯を通じた健康保持、増進の支援に必要な視点として、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念を基に、女性のライフステージ各期の生物学的、心理学的、社会文化学的特徴、および健康状態に影響する諸要因、母性看護学領域の倫理的課題について論じるとともに、看護介入の方法について学習する。					
到達目標	・ 課題に関する文献のクリティークができる。 ・ 資料をもとにリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から女性のライフステージ各期の健康上の課題を議論し、支援法が提示できる。 ・ 地域における母子支援の現状を分析し、研究方法が提示できる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念 論文のクリティーク法				講義	前田 鈴立
2	思春期の性（1） 性感染症				講義	前田 鈴立
3	思春期の性（2） 望まない妊娠				講義	前田 鈴立
4	生殖医療と倫理的課題（1）				講義	前田 鈴立
5	生殖医療と倫理的課題（2）				講義	前田 鈴立
6	周産期におけるケア 早期母子接触				講義	前田 鈴立
7	障害のある子どもの出生と継続支援（1）				講義	前田 鈴立
8	障害のある子どもの出生と継続支援（2）				講義	前田 鈴立

回	授業内容	授業方法	担当者
9	流産、死産時の支援（１） ・ 流産、死産時の支援をテーマに学術論文や学術雑誌、成書等の文献からの話題提起と討論	講義	前田 鈴立
10	流産、死産時の支援（２） ・ 前回の討論をふまえ、さらに知識を深めた支援法の提示	講義	前田 鈴立
11	周産期におけるメンタルケア ・ 周産期におけるメンタルケアをテーマに学術論文や学術雑誌、成書等の文献からの話題提起と討論	講義	前田 鈴立
12	周産期における母子ケア（１） ・ 周産期における母子ケアをテーマに学術論文や学術雑誌、成書等の文献からの話題提起と討論	講義	前田 鈴立
13	周産期における母子ケア（２） ・ 前回の討論をふまえ、さらに知識を深めた支援法の提示	講義	前田 鈴立
14	虐待の病理と地域における対応（１） ・ 鳥取の地域保健における虐待の実際の事例や、虐待の病理と地域における対応をテーマに学術論文や学術雑誌、成書等の文献からの話題提起と討論	講義	稲田 前田 鈴立
15	虐待の病理と地域における対応（２） ・ 前回の討論をふまえ、さらに知識を深めた支援法の提示	講義	稲田 前田 鈴立
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	母性衛生、助産婦雑誌、ペリネイタルケア、および産科と婦人科の最新号を読む。		
テキスト	教科書は特に指定しないが、資料を配布する。		
参考文献	講義で紹介する。		
評価方法	レポート 30%、授業態度 20%、発表 30%、提出物 20%		
注意事項	関連ある国内外の学会に 1 回以上参加することが望ましい。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	流産、死産時の支援（１）	講義	前田 鈴立
10	流産、死産時の支援（２）	講義	前田 鈴立
11	周産期におけるメンタルケア	講義	前田 鈴立
12	周産期における母子ケア（１）	講義	前田 鈴立
13	周産期における母子ケア（２）	講義	前田 鈴立
14	虐待の病理と地域における対応（１）	講義	前田 鈴立 稲田
15	虐待の病理と地域における対応（２）	講義	前田 鈴立 稲田
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	母性衛生、助産婦雑誌、ペリネイタルケア、および産科と婦人科の最新号を読む		
テキスト	資料を配布する		
参考文献	講義で紹介する		
評価方法	レポート 30%、授業態度 20%、発表 30%、提出物 20%		
注意事項	関連ある国内外の学会に 1 回以上参加することが望ましい		

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 小 児 看 護 学 特 論			担当教員 E-mail	小村三千代	
開講年次	2 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	可（若干名）
授業形態	講義	時間数(単位数)	30（2）			
授業の概要	小児疾患患者が地域で生活するための看護支援や、地域の子どもの健康に成長することに対する看護実践を行う能力、そのような実践を意図した研究を行う能力を養うために、本科目では、地域で生活する子どもと家族、さらにそれを取り巻く地域の特徴、およびそれらの相互的・相補的作用に基づいた発達理論、疾患を抱えながら地域で暮らす子どもの精神発達、身体的成長、疾患罹患の相互関係とそのケアについて学修する。					
到達目標	・地域で生活する子どもと家族を理解するための発達理論を学び、理論分析を行うことができる。 ・地域で生活する子どもと家族への支援およびケアを理解し看護を探究する能力を身につける。 ・地域で生活する子どもと家族に関する研究を分析し、研究の動向を捉える能力を身につける。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	ガイダンス、理論分析、研究のクリティーク ・参考文献の概説と本科目におけるその活用の仕方について				講義	小村
2	発達理論（１） ・認知・思考の発達ピアジェの認知発達理論				講義	小村
3	発達理論（２） ・関係性の発達ボウルビィの愛着理論				講義	小村
4	発達理論（３） ・ウィニコット 情緒発達の精神分析理論				講義	小村
5	発達理論（４） ・自我の発達エリクソンの発達理論				講義	小村
6	発達理論（５） ・家族の理論				講義	小村
7	発達理論（６）総括 ・第 6 回までに学んだ発達理論から子どもや家族への看護についての考察				講義	小村
8	子どもと家族の倫理的課題 ・具体的な事例の分析				講義	小村



科目番号	〇〇〇〇			担当教員	小村三千代		
授業科目名	小 児 看 護 学 特 論			E-mail			
開講年次	2 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受入 可能人数）	可（若干名）	
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)				
授業の概要	小児疾患患者が地域で生活するための看護支援や、地域の子どもが健康に成長することに対する看護実践を行う能力、そのような実践を意図した研究を行う能力を養うために、本科目では、地域で生活する子どもと家族、さらにそれを取り巻く地域の特徴、およびそれらの相互的・相補的作用に基づいた発達理論、疾患を抱えながら地域で暮らす子どもの精神発達、身体的成長、疾患罹患の相互関係とそのケアについて学修する。						
到達目標	・地域で生活する子どもと家族を理解するための発達理論を学び、理論分析を行う。 ・地域で生活する子どもと家族への支援およびケアを学び、看護を探究する。 ・地域で生活する子どもと家族に関する研究を分析し、研究の動向を捉える。						
授業計画							
回	授業内容					授業方法	担当者
1	ガイダンス、理論分析、研究のクリティーク					講義	小村
2	発達理論(1)ピアジェ					講義	小村
3	発達理論(2)ボウルビィ					講義	小村
4	発達理論(3)ウィニコット					講義	小村
5	発達理論(4)エリクソン					講義	小村
6	発達理論(5)家族の理論					講義	小村
7	発達理論(1)総括					講義	小村
8	子どもと家族の倫理的課題					講義	小村

回	授業内容	授業方法	担当者
9	実践の分析（１） ・これまでの子どもと家族を対象とした看護実践の経験の分析	講義	小村
10	実践の分析（２） ・これまでの子どもと家族を対象とした看護実践の経験の分析	講義	小村
11	実践の分析（３） ・これまでの子どもと家族を対象とした看護実践の経験の分析	講義	小村
12	実践の分析（４）総括 ・第 11 回までの分析からの子どもや家族への看護についての深化	講義	小村
13	子どもと家族に関する研究の動向 ・学術論文や関連学会の動向に関する理解の深化	講義	小村
14	子どもと家族に関する研究の分析 ・自身の研究活動に関連する文献のクリティーク	講義	小村
15	まとめ、授業評価 ・自身の研究活動への示唆について	講義	小村
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	提示した参考文献を熟読し、考察する。		
テキスト	教科書は指定しないが、随時授業で資料を配付する。		
参考文献	開講時、参考文献リストを配付する。		
評価方法	授業の取り組み 30%、レポート 40%、発表 30%		
注意事項	主体的な参加を期待する。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	実践の分析(1)	講義	小村
10	実践の分析(2)	講義	小村
11	実践の分析(3)	講義	小村
12	実践の分析(4)総括	講義	小村
13	子どもと家族に関する研究の動向	講義	小村
14	子どもと家族に関する研究の分析	講義	小村
15	まとめ、授業評価	講義	小村
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	提示した参考文献を熟読し、考察する。		
テキスト	随時授業で資料を配付する。		
参考文献	開講時、参考文献リストを配付する。		
評価方法	授業の取り組み 30%、レポート 40%、発表 30%		
注意事項	主体的な参加を期待する。		

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 国 際 看 護 特 論			担当教員 E-mail	荒川満枝, 藤原美智子	
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	可 (1 名)
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	国際保健の歴史と共に、看護の対象理解と自身のコミュニケーション能力の醸成を中心に学ぶ。本科目は概ね英語を共通言語として用い、国際的な健康の課題や政策の動向を理解し、諸外国の看護師と議論できるような能力を養う。					
到達目標	・ 国際保健の歴史とその在り方に関する自身の考えを、英語表現することができる。 ・ 興味のある国の文化・社会・生活や保健統計に関して、英語で説明することができる。 ・ 国際保健に関する看護のあり方に関して、海外の看護職者と討論することができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1	授業ガイダンス ・ 学修指向と授業の方向性の確認、文献紹介、 科目の概要				講義	荒川 藤原
2	国際保健・国際看護に関する用語の定義について ・ 各種文献を使つての用語の確認、その意義				講義	荒川 藤原
3	世界の健康課題 1 ・ 世界の健康問題とミレニアム開発目標 について、文献抄読を通した理解と討論 ・ 次回のプレゼンテーションの課題決定				講義	荒川 藤原
4	世界の健康課題 2 ・ ミレニアム開発目標 についてのプレゼンテーション 、文献抄読と討論 を通したミレニアム開発目標に関する評価 ・ 次回のプレゼンテーションの課題選択				講義	荒川 藤原
5	世界の健康課題 3 ・ ミレニアム開発目標の評価 についてのプレゼンテーション ・ 文献抄読と討論 を通して、持続可能な開発目標に関しての考察 ・ 次回のプレゼンテーションの課題選択				講義	荒川 藤原
6	世界の健康課題 4 ・ 持続可能な開発目標 についてのプレゼンテーションと討論				講義	荒川 藤原
7	WHO の国際保健政策 1 ・ 感染症対策を中心に文献抄読と討論 ・ 次回の WHO の国際保健政策に関するプレゼンテーションの課題選択				講義	荒川 藤原
8	WHO の国際保健政策 2 ・ 選択した課題 についてのプレゼンテーションと討論				講義	荒川 藤原



科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 国 際 看 護 特 論			担当教員 E-mail	荒川満枝, 藤原美智子	
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	可 (1 名)
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	国際保健の歴史と共に、看護の対象理解と自身のコミュニケーション能力の醸成を中心に学ぶ。本科目は概ね英語を共通言語として用い、国際的な健康の課題や政策の動向を理解し、諸外国の看護師と議論できるような能力を養う。					
到達目標	・ 国際保健の歴史とその在り方に関する自身の考えを、英語表現することができる。 ・ 興味のある国の文化・社会・生活や保健統計に関して、英語で説明することを経験する。 ・ 国際保健に関する看護のあり方に関して、海外の看護職者と討論することができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1	授業ガイダンス 学修指向と授業の方向性の確認、文献紹介				講義	荒川 藤原
2	国際保健・国際看護に関する用語の定義について				講義	荒川 藤原
3	世界の健康課題 1 世界の健康問題とミレニアム開発目標 (文献抄読と討論、課題決定)				講義	荒川 藤原
4	世界の健康課題 2 ミレニアム開発目標についてのプレゼン、ミレニアム開発目標に関する評価 (文献抄読と討論、課題選択)				講義	荒川 藤原
5	世界の健康課題 3 ミレニアム開発目標の評価についてのプレゼンテーション、持続可能な開発目標 (文献抄読と討論、課題選択)				講義	荒川 藤原
6	世界の健康課題 4 持続可能な開発目標についてのプレゼンテーションと討論				講義	荒川 藤原
7	WHO の国際保健政策 1 ～感染症対策を中心に～ (文献抄読と討論、課題選択)				講義	荒川 藤原
8	WHO の国際保健政策 2 選択した課題についてのプレゼンテーションと討論				講義	荒川 藤原

回	授業内容	授業方法	担当者
9	フィリピン共和国の保健・医療・看護について 1 ・ 概要の説明と文献抄読および討論	講義	荒川 藤原
10	フィリピン共和国の保健・医療・看護について 2 ・ Skype を利用して、フィリピンの看護専門職との討論	講義	荒川 藤原
11	日本の保健・医療・看護についてのプレゼンテーション (Skype 利用) ・ Skype を利用して、フィリピンの看護専門職との討論	講義	荒川 藤原
12	保健に関する日本の国際貢献の実際 ・ 実際の JICA の活動報告を中心に文献抄読と討論	講義	藤原 荒川
13	保健に関する日本の国際貢献について文献抄読と討論 ・ 次回のプレゼンテーションの課題選択	講義	藤原 荒川
14	関心ある国（または地域）に関する医療・保健・看護について、またその国（または地域）への国際協力についてのプレゼンテーションと討論	講義	藤原 荒川
15	講義のまとめと今後の課題	講義	荒川 藤原
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	事前学習として、プレゼンテーションのための準備に、多くの時間を割くことになるでしょう。その内容やプレゼン方法については、適宜、教員の研究室に相談にお出ください。また、討論の内容を自分なりにまとめることは、有効な事後学習となります。		
テキスト	特に指定しないが、ダウンロードファイル等を適宜提示する。		
参考文献	・ マデリン M レイニンガー著、稲岡文照監訳：レイニンガー看護論、文化ケアの多様性と普遍性、医学書院、1995 ・ 適宜提示する。		
評価方法	レポート 20%、講義や他者のプレゼンに対する発言（授業貢献度）30%、プレゼンテーション 50%		
注意事項	共通言語として、英語を駆使した授業とします。英語によるコミュニケーションを楽しみましょう。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	フィリピン共和国の保健・医療・看護について 1 概要の説明と文献抄読および討論	講義	荒川 藤原
10	フィリピン共和国の保健・医療・看護について 2 Skype を利用して、フィリピンの看護専門職との討論	講義	荒川 藤原
11	日本の保健・医療・看護についてのプレゼンテーション (Skype 利用) Skype を利用して、フィリピンの看護専門職との討論	講義	荒川 藤原
12	保健に関する日本の国際貢献の実際 ～JICA の活動報告を中心に～	講義	藤原 荒川
13	保健に関する日本の国際貢献 (文献抄読と討論、課題選択)	講義	藤原 荒川
14	関心ある国 (または地域) に関する医療・保健・看護について、またその国 (または地域) への国際協力についてのプレゼンテーションと討論	講義	藤原 荒川
15	講義のまとめと今後の課題	講義	荒川 藤原
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	事前学習として、プレゼンテーションのための準備に、多くの時間を割くことになるでしょう。その内容やプレゼン方法については、適宜、教員の研究室に相談にお出ください。また、討論の内容を自分なりにまとめることは、有効な事後学習となります。		
テキスト	特に指定しないが、ダウンロードファイル等を適宜提示する		
参考文献	・マデリン M レイニンガー (1995) 著、稲岡文照監訳：レイニンガー看護論、文化ケアの多様性と普遍性、医学書院 ・適宜提示する		
評価方法	レポート 20%、講義や他者のプレゼンに対する発言 (授業貢献度) 30%、プレゼンテーション 50%		
注意事項	英語によるコミュニケーションを楽しみましょう。		

科目番号	〇〇〇〇			担当教員	荒川満枝, 藤原美智子	
授業科目名	国際地域保健展開論			E-mail		
開講年次	2 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	増加する日本在住の外国人への健康に関するケアを考慮に入れて、本邦の外国人の生活や健康問題に関して理解を深めるとともに、対象者の文化的・社会的背景を踏まえた保健・医療・福祉のシステムについて議論を深める。国際看護特論で修めた諸外国の健康問題やその検索方法、歴史的・文化的な理解、言語能力を活用し、異文化の中に浸透してケアを実践するための自分なりの方法を熟考する。					
到達目標	・自分とは異なる文化的背景を持つ対象へのケアプランを立てることができる。 ・異文化理解の上でケアを実践する看護・保健活動のあり様やこれから目指すべき国際保健 (Global Health) の課題について、自身の考えを述べることができる。 ・自身の研究への示唆を得て、リサーチクエストへと発展させることができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	授業ガイダンス ・これまでの科目の振り返りと授業の方向性の確認、文献紹介				講義	荒川 藤原
2	関心を持つ国際地域、国、または文化圏の絞り込み ・選択した国や地域の文化・社会・経済背景について文献検討				講義 演習	荒川 藤原
3	文献検討の進捗報告 (プレゼンテーション) ・文献調査の展開内容 (追加調査を要する分野) の検討				講義 演習	荒川 藤原
4	文献検討の進捗報告 (プレゼンテーション) ・該当する国または文化圏の方で、日本に住まわれている方に対するケアのニーズについての考察				講義 演習	荒川 藤原
5	これまでの文献検討と、ニーズ検討を踏まえたケアプランの設定と実際の実施計画立案				講義 演習	荒川 藤原
6	立案したケアプランと実施計画の発表 (プレゼンテーション) ・対象者理解を中心に計画案の練成				講義	荒川 藤原
7	「グローバルまちの保健室」を活用したケアプランの実施 1 ・対象者理解を中心に実際に実施 (参加)				演習	荒川 藤原
8	実施したケアの振り返り (プレゼンテーション) ・対象者理解に関する疑問や課題の明確化				講義	荒川 藤原



科目番号	〇〇〇〇			担当教員	荒川満枝, 藤原美智子	
授業科目名	国際地域保健展開論			E-mail		
開講年次	2 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	増加する日本在住の外国人への健康に関するケアを考慮に入れて、本邦の外国人の生活や健康問題に関して理解を深めるとともに、対象者の文化的・社会的背景を踏まえた保健・医療・福祉のシステムについて議論を深める。国際看護特論で修めた諸外国の健康問題やその検索方法、歴史的・文化的な理解、言語能力を活用し、異文化の中に浸透してケアを実践するための自分なりの方法を熟考する。					
到達目標	・ 自分とは異なる文化的背景を持つ対象へのケアプランを立てることができる。 ・ 異文化理解の上でケアを実践する看護・保健活動のあり様やこれから目指すべき国際保健 (Global Health) の課題について、自身の考えを述べることができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1	授業ガイダンス これまでの科目の振り返りと授業の方向性の確認、文献紹介				講義	荒川 藤原
2	それぞれに関心を持つ国際地域、国、または文化圏を絞り、その文化・社会・経済背景について文献検討				講義と 演習	荒川 藤原
3	文献検討の進捗報告 (プレゼンテーション) と、文献調査の展開内容 (追加調査を要する分野) の検討、および文献調査				講義と 演習	荒川 藤原
4	文献検討の進捗報告 (プレゼンテーション) と、該当する国または文化圏の方で、日本に住まわれている方に対するケアのニーズについての考察				講義と 演習	荒川 藤原
5	これまでの文献検討と、ニーズ検討を踏まえたケアプランの設定と実際の実施計画立案				講義と 演習	荒川 藤原
6	立案したケアプランと実施計画の発表 (プレゼンテーション)				講義	荒川 藤原
7	「グローバルまちの保健室」 「国際まちの保健室」を活用したケアプランの実施 1				演習	荒川 藤原
8	実施したケアの振り返り (プレゼンテーション) 対象者理解に関する疑問や課題の明確化				講義	荒川 藤原

回	授業内容	授業方法	担当者
9	「グローバルまちの保健室」の実施計画作成 ・各関係機関への調整と調整の評価と課題の明確化	演習	荒川 藤原
10 11	「グローバルまちの保健室」を活用したケアプランの実施 2 ・対象者支援の妥当性、関係機関との調整の有用性、継続性・発展性の評価と課題の抽出	演習	荒川 藤原
12	実施したケアの振り返り（プレゼンテーション） ・対象者の理解と、調整・実施方法に関する疑問や課題の明確化 ・自身のケアの方向性についての考察	講義 演習	荒川 藤原
13	異文化理解と看護に関する疑問や課題に対する文献検討・調査・自身の仮定の裏付けの明確化	講義 演習	荒川 藤原
14	異文化理解と看護に関する研究の動向についての文献検討と討論 ・国際保健（Global Health）との関連についての考えのまとめ	講義 演習	荒川 藤原
15	まとめ ・特別研究に向けたリサーチクエスチョンの明確化	講義	荒川 藤原
授業時間外の学習 （事前・事後学習）	討論した内容の意味を深めるために、常に文献の検討を続けましょう。次の時間に更なる討論の深化を期待します。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	適宜提示します。		
評価方法	プレゼンテーション 50%, 演習（ケアプランの実施）の成果 40%, レポート 10%		
注意事項	本科目の履修によって、ある程度特別研究テーマの絞り込みをすることを意識しましょう。		

回	授業内容	授業方法	担当者
9	「国際まちの保健室」の実施計画作成 各関係機関への調整と振り返り	演習	荒川 藤原
10	「国際まちの保健室」を活用したケアプランの実施2	講義と 演習	荒川 藤原
11			
12	実施したケアの振り返り（プレゼンテーション） 対象者の理解と、調整・実施方法に関する疑問や課題の明確化 自身のケアの方向性についての考察	講義と 演習	荒川 藤原
13	異文化理解と看護に関する疑問や課題に対する文献検討・調査	講義と 演習	荒川 藤原
14	異文化理解と看護に関する研究の動向についてのプレゼンテーション と討論	講義と 演習	荒川 藤原
15	まとめ リサーチクエスションの明確化	講義	荒川 藤原
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	討論した内容の意味を深めるために、常に文献の検討を続けましょう。次の時間に更なる討論 の深化を期待します。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	適宜提示します。		
評価方法	プレゼンテーション 50%, 演習（ケアプランの実施）の成果 40%, レポート 10%		
注意事項	本科目の履修によって、ある程度特別研究テーマの絞り込みをすることを意識しましょう。		

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 看護教育育成演習 I			担当教員 E-mail	前田隆子, 小村三千代, 安田美彌子 他
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択	科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	30 (2)		
授業の概要	看護職者として実践能力の質の向上を図る観点から、看護基礎教育・看護継続教育および看護の対象者へのより良い教育介入のために、その本質を探究し課題を見極める。看護教育育成演習 I では、看護実践の場においてスタッフ教育及び患者教育の質の向上を図るために、看護基礎教育における教授内容と方法、演習指導、臨地実習指導などに焦点を当て、看護学生への演習・実習指導を体験し、学修を深める。教育実践を通して、自らの論理的思考を鍛え、教育的関わりをリフレクションし、看護基礎教育における教育方法、臨地実習指導方法のあり方を考究する。				
到達目標	・看護基礎教育におけるカリキュラム編成をふまえた教授内容と方法、演習指導、臨地実習指導を理解できる。 ・教育実践を通して、自らの論理的思考を鍛え、教育的関わりをリフレクションできる。 ・地域での看護実践を見据えた看護基礎教育における教育方法、臨地実習指導方法のあり方について考えることができる。				
授業計画					
回	授業内容			授業方法	担当者
1	オリエンテーション/看護学教育におけるカリキュラムの考え方			講義	前田 小村 安田他
2	看護学教育のカリキュラム開発とカリキュラムデザインと評価 ・看護基礎教育に焦点をあて考察 ・看護基礎教育におけるカリキュラム評価を中心に考察			講義	前田 小村 安田他
3	臨地実習における教育と学習 ・教育的ケアリングモデル・経験型実習教育について理解 ・臨地実習で直面する問題についての理解 ・解決方法について考察			講義	前田 小村 安田他
4	教育評価と看護学教育での評価の実際 ・教育評価の意義と様々な評価の観点や方法の理解			講義	前田 小村 安田他
5	教育実践の体験 1 ・看護基礎教育における演習や臨地実習で教育実践のための準備			演習	前田 小村 安田他
6	教育実践の体験 2 看護基礎教育における演習で教育実践の体験 実践の場でのリフレクション ・精神看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域、基盤看護学領域など、学部の後期科目に設定されている看護学演習で、学生の関心の高いものを選択し、指導教員に相談し体験する。			演習	前田 小村 安田他
7	教育実践の体験 3 看護基礎教育における演習で教育実践の体験 実践の場でのリフレクション ・精神看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域、基盤看護学領域など、学部の後期科目に設定されている看護学演習で、学生の関心の高いものを選択し、指導教員に相談し体験する。			演習	前田 小村 安田他



科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 看護教育育成演習Ⅰ			担当教員 E-mail	前田隆子, 小村三千代, 安田美彌子 他	
開講年次	1 年 後期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	30 (2)			
授業の概要	看護職者として実践能力の質の向上を図る観点から、看護基礎教育・看護継続教育および看護の対象者へのより良い教育介入のために、その本質を探究し課題を見極める。看護教育育成演習Ⅰでは、看護実践の場においてスタッフ教育及び患者教育の質の向上を図るために、看護基礎教育における教授内容と方法、演習指導、臨地実習指導などに焦点を当て、看護学生への演習・実習指導を体験し、学修を深める。教育実践を通して、自らの論理的思考を鍛え、教育的関わりをリフレクションし、看護基礎教育における教育方法、臨地実習指導方法のあり方を考究する。					
到達目標	・看護基礎教育における教授内容と方法、演習指導、臨地実習指導を理解し、体験できる。 ・教育実践を通して、自らの論理的思考を鍛え、教育的関わりをリフレクションできる。 ・看護基礎教育における教育方法、臨地実習指導方法のあり方について考えることができる					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1	オリエンテーション/看護学教育におけるカリキュラムの考え方				講義	前田 小村 安田
2	看護学教育のカリキュラム開発とカリキュラムデザイン 看護基礎教育に焦点をあて考える				講義	前田 小村 安田
3	看護学教育のカリキュラム評価 看護基礎教育におけるカリキュラム評価を中心に考える				講義	前田 小村 安田
4	臨地実習における教育と学習 1 教育的ケアリングモデル・経験型実習教育について理解する				講義	前田 小村 安田
5	臨地実習における教育と学習 1 臨地実習で直面する問題について理解し、その解決方法について考える				講義	前田 小村 安田
6	教育評価と看護学教育での評価の実際 教育評価の意義と様々な評価の観点や方法を理解する				講義	前田 小村 安田
7	教育実践の体験 1 看護基礎教育における演習や臨地実習で教育実践のための準備をする				演習	前田 小村 安田
8	教育実践の体験 2 看護基礎教育における演習で教育実践を体験する				演習	前田 小村 安田

回	授業内容	授業方法	担当者
8 9	教育実践の体験 4 看護基礎教育における臨地実習で教育実践の体験 実践の場でのリフレクション ・精神看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域など、学部の後期科目に設定されている臨地実習で、学生の専門領域であるものを選択し、指導教員に相談し体験する。 ・これまでの学びを踏まえ、学生のレディネスを考察した実践計画立案	演習	前田 小村 安田他
		演習	前田 小村 安田他
10 11	教育実践の体験 5 看護基礎教育における臨地実習で教育実践の体験 実践の場でのリフレクション ・精神看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域など、学部の後期科目に設定されている臨地実習で、学生の専門領域であるものを選択し、指導教員に相談し体験する。 ・これまでの学びを踏まえ、学生のレディネスを考察した実践計画立案	演習	前田 小村 安田他
		演習	前田 小村 安田他
12	教育実践経験からの学びと課題 1 ・教育的関わりの体験に関するリフレクションの発表と討論	演習	前田 小村 安田他
13	教育実践経験からの学びと課題 2 ・教育的関わりの体験に関するリフレクションの発表と討論	演習	前田 小村 安田他
14	看護基礎教育における教育方法、臨地実習指導方法のあり方	講義	前田 小村 安田他
15	まとめ ・授業全体の学びを再確認する討論 ・授業内容を踏まえた意見や発想の論述	演習	前田 小村 安田他
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	授業・演習への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	教科書は特に指定しないが、必要に応じて講義中に資料を配布する。		
参考文献	必要に応じて講義中に指示する。		
評価方法	授業中の討議内容 40%、レポート 60%で総合的に評価する。		
注意事項			

回	授業内容	授業方法	担当者
9	教育実践の体験 3 看護基礎教育における演習で教育実践を体験する	演習	前田 小村 安田
10	教育実践の体験 4 看護基礎教育における臨地実習で教育実践を体験する	演習	前田 小村 安田
11	教育実践の体験 5 看護基礎教育における臨地実習で教育実践を体験する	演習	前田 小村 安田
12	教育実践経験からの学びと課題 1 教育的関わりの体験を発表し、討論する	演習	前田 小村 安田
13	教育実践経験からの学びと課題 2 教育的関わりの体験を発表し、討論する	演習	前田 小村 安田
14	看護基礎教育における教育方法、臨地実習指導方法のあり方について考える	講義	前田 小村 安田
15	まとめ 授業全体の学びを再確認する討論を行い、その後、授業内容を踏まえた意見や発想を論述する作業を行う。	演習	前田 小村 安田
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	授業・演習への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	必要に応じて講義中に指示する。		
参考文献	必要に応じて講義中に指示する。		
評価方法	授業中の討議内容 40%、レポート 60%で総合的に評価する。		
注意事項			

科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 看護教育育成演習Ⅱ			担当教員 E-mail	近田敬子, 田中響, 矢倉紀子, 古都昌子他		
開講年次	2 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可	
授業形態	演習	時間数(単位数)	30 (2)				
授業の概要	看護職者として実践能力の質の向上を図る観点から、看護基礎教育・看護継続教育および看護の対象者へのより良い教育介入のために、その本質を探究し課題を見極める。看護ケアの実践の場における他職種者との連携・協働を含めた看護支援方法や看護専門職者の新人から中堅、管理職までの育成方法などの自己教育力を育成する教授法について看護教育の動向から考究する。						
到達目標	・看護実践の場で、看護継続教育における教育方法や教育支援のあり方、教育介入を理解できる。 ・臨地実習指導、看護継続教育の実践を通して、他職種者との連携・協働を考え、言語化できる。 ・看護継続教育における教育的機能・役割について探究するための基礎能力が身につく。						
授業計画							
回	授業内容					授業方法	担当者
1	オリエンテーション/看護継続教育とは					講義	近田 田中 矢倉 古都他
2	専門職としての看護 1 看護継続教育を通したセルフマネジメントとキャリアマネジメント ・看護専門職として自身を教育・訓練し実践を発展させる自己教育力の育成					講義	近田 田中 矢倉 古都他
3	専門職としての看護 2 看護継続教育と組織とマネジメント ・組織の必要性、現状分析、組織への貢献方法、他職種者との連携・協働					講義	近田 田中 矢倉 古都他
4	教育評価と看護学教育での評価の実際 ・教育評価の意義と様々な評価の観点や方法					講義	近田 田中 矢倉 古都他
5	教育実践の体験 1 ・看護基礎教育における演習や看護継続教育で教育実践の演習を行うための準備					演習	近田 田中 矢倉 古都他
6	教育実践の体験 2 看護基礎教育における演習で教育実践の体験 ・基盤看護学領域、公衆衛生看護学領域など、学部前期科目に設定されている看護学演習で、学生の関心の高いものを選択する。 ・実践の場でのリフレクション					演習	近田 田中 矢倉 古都他
7	教育実践の体験 3 看護基礎教育における演習で教育実践の体験 ・基盤看護学領域、公衆衛生看護学領域など、学部前期科目に設定されている看護学演習で、学生の関心の高いものを選択する。 ・実践の場でのリフレクション					演習	近田 田中 矢倉 古都他

科目番号	〇〇〇〇			担当教員	近田敬子, 荒川満枝, 田中響 ,	
授業科目名	看護教育育成演習Ⅱ			E-mail	矢倉紀子	
開講年次	2 年 前期	必修・選択	選択		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	30（2）			
授業の概要	看護職者として実践能力の質の向上を図る観点から、看護基礎教育・看護継続教育および看護の対象者へのより良い教育介入のために、その本質を探究し課題を見極める。看護ケアの実践の場における他職種者との連携・協働を含めた看護支援方法や看護専門職者の新人から中堅、管理職までの育成方法などの自己教育力を育成する教授法について看護教育の動向から考究する。					
到達目標	・看護実践の場で、看護継続教育における教育方法や支援のあり方、教育介入を体験する。 ・臨地実習指導、看護継続教育の実践を通して、他職種者との連携・協働を考える。 ・看護継続教育における教育的機能・役割について探究する。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1	オリエンテーション/看護継続教育とは				講義	近田 荒川 田中 矢倉
2	専門職としての看護を考える				講義	近田 荒川 田中 矢倉
3	セルフマネジメント 看護専門職として実践を発展させる基盤について考える				講義	近田 荒川 田中 矢倉
4	キャリアマネジメント 専門職として実践ができるよう適切な資源を探し、自身を教育・訓練するための学修について考える				講義	近田 荒川 田中 矢倉
5	組織とマネジメント 組織はなぜ必要なのか、現状はどうなっているのか、自身はどのように組織に貢献できるのかを考える				講義	近田 荒川 田中 矢倉
6	教育評価と看護学教育での評価の実際 教育評価の意義と様々な評価の観点や方法を理解する				講義	近田 荒川 田中 矢倉
7	教育実践の体験 1 看護基礎教育における演習や看護継続教育で教育実践のための準備をする				演習	近田 荒川 田中 矢倉
8	教育実践の体験 2 看護基礎教育における演習で教育実践を体験する				演習	近田 荒川 田中 矢倉

回	授業 内容	授業 方法	担当者
8 9	教育実践の体験 4 看護基礎教育における臨地実習で教育実践の体験 ・基盤看護学領域、公衆衛生看護学領域など、学部の前期科目に設定されている臨地実習で、学生の専門領域であるものを選択する。 ・これまでの学びを踏まえ、学部学生のレディネスを考察し実践計画立案 ・実践の場でのリフレクション	演習	近田 田中 矢倉 古都他
		演習	近田 田中 矢倉 古都他
10	教育実践の体験 5 看護継続教育における教育実践の体験 ・指導教員が実践している地域の病院や施設、看護協会などの看護継続教育プログラムのうち、学生の興味関心が高く、専門領域であるものを選択する。 ・相談の上、プログラムの一部を体験 ・実践の場でのリフレクション	演習	近田 田中 矢倉 古都他
11	教育実践の体験 6 看護継続教育における教育実践の体験 ・指導教員が実践している地域の病院や施設、看護協会などの看護継続教育プログラムのうち、学生の興味関心が高く、専門領域であるものを選択する。 ・相談の上、プログラムの一部を体験 ・実践の場でのリフレクション	演習	近田 田中 矢倉 古都他
12	教育実践経験からの学びと課題 1 ・教育的関わりの体験に関するリフレクションの発表と討論	講義 演習	近田 田中 矢倉 古都他
13	教育実践経験からの学びと課題 2 ・教育的関わりの体験に関するリフレクションの発表と討論	講義 演習	近田 田中 矢倉 古都他
14	看護継続教育における教育方法、教育的機能・役割についての考察	講義	近田 田中 矢倉 古都他
15	まとめ ・授業全体の学びを再確認する討論 ・授業内容を踏まえた意見や発想の論述	講義	近田 田中 矢倉 古都他
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	授業・演習への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	教科書は指定しないが、必要に応じて講義中に資料を配布する。		
参考文献	必要に応じて講義中に指示する。		
評価方法	授業中の討議内容 40%、レポート 60%で総合的に評価する。		
注意事項			

回	授業内容	授業方法	担当者
9	教育実践の体験 3 看護基礎教育における臨地実習で教育実践を体験する	演習	近田 荒川 田中 矢倉
10	教育実践の体験 4 看護継続教育における教育実践を体験する	演習	近田 荒川 田中 矢倉
11	教育実践の体験 5 看護 継続教育における教育実践を体験する	演習	近田 荒川 田中 矢倉
12	教育実践経験からの学びと課題 1 教育的関わりの体験を発表し、討論する	講義・ 演習	近田 荒川 田中 矢倉
13	教育実践経験からの学びと課題 2 教育的関わりの体験を発表し、討論する	講義・ 演習	近田 荒川 田中 矢倉
14	看護継続教育における教育方法、さらに教育的機能・役割について考える	講義	近田 荒川 田中 矢倉
15	まとめ 授業全体の学びを再確認する討論を行い、その後、授業内容を踏まえた意見や発想を論述する作業を行う。	講義	近田 荒川 田中 矢倉
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	授業・演習への主体的参加を重視するので、各講義において提示された文献を熟読すること、及び、自分自身の関連する領域に関しての文献を調べ、各自が討論する内容を充実して、授業に臨むことを期待する。 ※各授業につき予習 90 分、復習 90 分を目安とする。		
テキスト	必要に応じて講義中に指示する。		
参考文献	必要に応じて講義中に指示する。		
評価方法	授業中の討議内容 40%、レポート 60%で総合的に評価する。		
注意事項			

科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	近田敬子, 矢倉紀子, 田中響	
授業科目名	特 別 研 究 I (地域イノベーション看護コース)					
開講年次	1 年 後期	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	60 (4)			
授業の概要	本科目では、学生が選択した専門分野の課題について文献クリティークにより、研究課題や研究方法を明確化し、修士論文作成に向けて主体的に研究計画を立案する能力を獲得する。選択した研究デザインと研究方法を吟味し、その倫理的な検討を十分に行い、本学の研究倫理審査委員会等の必要な審査を受け承認を得るなどの経験をする。 〔近田敬子〕 看護の如何なる場にあっても、地域を志向した実践は欠かせない時代である。しかし、その実践は緒についたばかりで、試行錯誤しながらも、何をどのように推進すればよいかで悩んでいる状況である。そのための現任教育の在りようが問われていると言える。その現状分析から課題を抽出し、理論を用いて効果的な教育計画を立案する。この過程で分析の方法を確立させて、研究計画書を作成する。 〔矢倉紀子〕 地域包括ケアシステムにおける保健師活動に関する研究やソーシャルキャピタルの醸成に関する研究などをテーマとして、実務や経験などから疑問・興味を感じたことについて文献検討を行い、研究課題を明確にし、研究計画を立てる。また、倫理的配慮を記述し倫理審査に申請する。 〔田中響〕 看護基礎教育および看護継続教育における教育方法、臨地実習指導方法などに関する研究や、地域包括ケアシステムにおける「まちの保健室」のあり方、地域リソースを活性化させるための取り組みに関する研究において研究課題や研究方法を明確にし、研究計画を立案するプロセスを修得する。					
到達目標	・専門領域で取り組む研究課題や研究方法を明確化ができる。 ・遂行しようとしている研究方法に関する倫理的問題について検討する能力を得る。 ・特別研究Ⅱで取り組むテーマについて、研究倫理審査委員会の審査を受け承認を得る。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1, 2	特別研究の進め方 ・修士論文提出に関する規程の確認、研究課題設定の方向性の確認				ゼミ ナール	研究指導 教員
3, 4	文献クリティーク 1 ・研究問題の設定と文献検索、検索方法の最適化、クリティークする文献の絞り込みや方向性の決定				ゼミ ナール	研究指導 教員
5, 6	文献クリティーク 2				ゼミ ナール	研究指導 教員
7, 8	文献クリティーク 3				ゼミ ナール	研究指導 教員



科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 特 別 研 究 I			担当教員 E-mail	各研究指導教員	
開講年次	1 年 後期	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	60 (4)			
授業の概要	本科目では、学生が選択した専門分野の課題について文献クリティークにより、研究課題や研究方法を明確化し、修士論文作成に向けて主体的に研究計画を立案する能力を獲得する。選択した研究デザインと研究方法を吟味し、その倫理的な検討を十分に行い、本学の研究倫理審査委員会等の必要な審査を受け承認を得るなどの経験をする。					
到達目標	・ 専門領域で取組む研究課題や研究方法を明確化する。 ・ 遂行しようとしている研究方法に関する倫理的問題について検討する能力を得る。 ・ 特別研究Ⅱで取り組むテーマについて、研究倫理審査委員会の審査を受け承認を得る。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1, 2	特別研究の進め方 修士論文提出に関する規程の確認、研究課題設定の方向性の確認				ゼミ ナール	研究指導 教員
3, 4	文献クリティーク 1				ゼミ ナール	研究指導 教員
5, 6	文献クリティーク 2				ゼミ ナール	研究指導 教員
7, 8	文献クリティーク 3				ゼミ ナール	研究指導 教員
9, 10	文献クリティーク 4 クリティークした文献と自身の研究課題との関係 自身の研究課題の明確化				ゼミ ナール	研究指導 教員
11, 12	文献クリティーク 5 クリティークした文献と自身の研究課題との関係 自身の研究方法の焦点化				ゼミ ナール	研究指導 教員
13, 14	研究計画書作成 1 研究の背景と最新の動向				ゼミ ナール	研究指導 教員
15, 16	研究計画書作成 2 研究目的の明確化とその意義の明確化、適切な研究方法の選択				ゼミ ナール	研究指導 教員

回	授業内容	授業方法	担当者
9, 10	文献クリティーク 4 ・クリティークした文献と自身の研究課題との関係 ・自身の研究課題の明確化	ゼミ ナール	研究指導 教員
11, 12	文献クリティーク 5 ・クリティークした文献と自身の研究課題との関係 ・自身の研究方法の焦点化	ゼミ ナール	研究指導 教員
13, 14	研究計画書作成 1 ・研究の背景と最新の動向	ゼミ ナール	研究指導 教員
15, 16	研究計画書作成 2 ・研究目的の明確化とその意義の明確化, 適切な研究方法の選択	ゼミ ナール	研究指導 教員
17, 18	研究計画書作成 3 ・研究方法の詳細な記述と考えられる倫理的問題の抽出	ゼミ ナール	研究指導 教員
19, 20	研究計画書作成 4 ・倫理的問題の解決と限界、研究の意義の討論	ゼミ ナール	研究指導 教員
21, 22	研究計画書作成 5 ・倫理的問題の解決と限界、研究の意義についての記述	ゼミ ナール	研究指導 教員
23, 24	研究倫理審査委員会申請 1 ・審査申請書の書き方、利益相反	ゼミ ナール	研究指導 教員
25, 26	研究倫理審査委員会申請 2 ・提出文書の整え方、研究倫理審査委員会への提出手続き	ゼミ ナール	研究指導 教員
27	研究倫理審査委員会申請 3 ・研究倫理審査委員会でのヒアリング	ゼミ ナール 演習	研究指導 教員
28, 29	研究計画の発表 ・研究計画発表会にて、研究計画のプレゼンテーション実施	演習	研究指導 教員
30	まとめ ・研究計画書作成の意義、研究倫理審査委員会申請の意義	ゼミ ナール	研究指導 教員
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	自身で文献検索し、選択した論文のクリティークや、そのプレゼンテーション準備、研究計画書作成のための時間が必要になります。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	必要に応じて適宜提示します。		
評価方法	プレゼンテーション 50%, 提出物 50%		
注意事項	指導教員とのコミュニケーションの取り方も重要な学修事項です。		

回	授業内容	授業方法	担当者
17, 18	研究計画書作成 3 研究方法の詳細な記述と考えられる倫理的問題の抽出	ゼミ ナール	研究指導 教員
19, 20	研究計画書作成 4 倫理的問題の解決と限界、研究の意義の討論	ゼミ ナール	研究指導 教員
21, 22	研究計画書作成 5 倫理的問題の解決と限界、研究の意義についての記述	ゼミ ナール	研究指導 教員
23, 24	研究倫理審査委員会申請 1 審査申請書の書き方、利益相反	ゼミ ナール	研究指導 教員
25, 26	研究倫理審査委員会申請 2 提出文書の整え方、研究倫理審査委員会への提出手続き	ゼミ ナール	研究指導 教員
27, 28	研究倫理審査委員会申請 3 研究倫理審査委員会でのヒアリング	ゼミ ナール	研究指導 教員
29, 30	まとめ 研究計画書作成の意義、研究倫理審査委員会申請の意義	ゼミ ナール	研究指導 教員
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	自身で文献検索し、選択した論文のクリティークや、そのプレゼンテーション準備、研究計画書作成のための時間が必要になります。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	特に指定しません。		
評価方法	プレゼンテーション 50%, 提出物 50%		
注意事項	指導教員とのコミュニケーションの取り方も重要な学修事項です。		

科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	安田美彌子	
授業科目名	特 別 研 究 I (地域メンタルヘルス看護コース)					
開講年次	1 年 後期	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	60（4）			
授業の概要	本科目では、学生が選択した専門分野の課題について文献クリティークにより、研究課題や研究方法を明確化し、修士論文作成に向けて主体的に研究計画を立案する能力を獲得する。選択した研究デザインと研究方法を吟味し、その倫理的な検討を十分に行い、本学の研究倫理審査委員会等の必要な審査を受け承認を得るなどの経験をする。 特に本コースでは、地域メンタルヘルス看護に関する研究、アディクション看護に関する研究など。実務や経験などから疑問、興味を感じたことについて文献検討を行い、研究テーマを明確にし、研究計画を立てる。					
到達目標	・専門領域で取組む研究課題や研究方法を明確化ができる。 ・遂行しようとしている研究方法に関する倫理的問題について検討する能力を得る。 ・特別研究Ⅱで取り組むテーマについて、研究倫理審査委員会の審査を受け承認を得る。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1， 2	特別研究の進め方 ・修士論文提出に関する規程の確認、研究課題設定の方向性の確認				ゼミナール	研究指導教員
3， 4	文献クリティーク 1 ・研究問題の設定と文献検索、検索方法の最適化、クリティークする文献の絞り込みや方向性の決定				ゼミナール	研究指導教員
5， 6	文献クリティーク 2				ゼミナール	研究指導教員
7， 8	文献クリティーク 3				ゼミナール	研究指導教員
9， 10	文献クリティーク 4 ・クリティークした文献と自身の研究課題との関係 ・自身の研究課題の明確化				ゼミナール	研究指導教員
11， 12	文献クリティーク 5 ・クリティークした文献と自身の研究課題との関係 ・自身の研究方法の焦点化				ゼミナール	研究指導教員
13， 14	研究計画書作成 1 ・研究の背景と最新の動向				ゼミナール	研究指導教員
15， 16	研究計画書作成 2 ・研究目的の明確化とその意義の明確化、適切な研究方法の選択				ゼミナール	研究指導教員



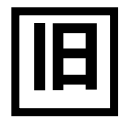
回	授業内容	授業方法	担当者
17, 18	研究計画書作成 3 ・研究方法の詳細な記述と考えられる倫理的問題の抽出	ゼミ ナール	研究指導 教員
19, 20	研究計画書作成 4 ・倫理的問題の解決と限界、研究の意義の討論	ゼミ ナール	研究指導 教員
21, 22	研究計画書作成 5 ・倫理的問題の解決と限界、研究の意義についての記述	ゼミ ナール	研究指導 教員
23, 24	研究倫理審査委員会申請 1 ・審査申請書の書き方、利益相反	ゼミ ナール	研究指導 教員
25, 26	研究倫理審査委員会申請 2 ・提出文書の整え方、研究倫理審査委員会への提出手続き	ゼミ ナール	研究指導 教員
27	研究倫理審査委員会申請 3 ・研究倫理審査委員会でのヒアリング	ゼミ ナール 演習	研究指導 教員
28, 29	研究計画の発表 ・研究計画発表会にて、研究計画のプレゼンテーション実施	演習	研究指導 教員
30	まとめ ・研究計画書作成の意義、研究倫理審査委員会申請の意義	ゼミ ナール	研究指導 教員
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	自身で文献検索し、選択した論文のクリティークや、そのプレゼンテーション準備、研究計画書作成のための時間が必要になります。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	必要に応じて適宜提示します。		
評価方法	プレゼンテーション 50%, 提出物 50%		
注意事項	指導教員とのコミュニケーションの取り方も重要な学修事項です。		



科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	前田隆子, 小村三千代	
授業科目名	特 別 研 究 I (地域家族子育て支援看護コース)					
開講年次	1 年 後期	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	60 (4)			
授業の概要	本科目では、学生が選択した専門分野の課題について文献クリティークにより、研究課題や研究方法を明確化し、修士論文作成に向けて主体的に研究計画を立案する能力を獲得する。選択した研究デザインと研究方法を吟味し、その倫理的な検討を十分に行い、本学の研究倫理審査委員会等の必要な審査を受け承認を得るなどの経験をする。 〔前田隆子〕 母子保健・母子看護・家族看護に関する研究テーマについて、文献検討を行い、研究課題、研究方法を明らかにし、研究計画を立てる。 〔小村三千代〕 関心領域に関連のある国内外の研究および、難病の子どもや家族の看護に関する研究のクリティークを行い、研究課題および研究方法を明確にし、研究計画書を立案する。また、倫理的配慮を記述し倫理審査に申請する。					
到達目標	・専門領域で取り組む研究課題や研究方法を明確化ができる。 ・遂行しようとしている研究方法に関する倫理的問題について検討する能力を得る。 ・特別研究Ⅱで取り組むテーマについて、研究倫理審査委員会の審査を受け承認を得る。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1, 2	特別研究の進め方 ・修士論文提出に関する規程の確認、研究課題設定の方向性の確認				ゼミナール	研究指導教員
3, 4	文献クリティーク 1 ・研究問題の設定と文献検索、検索方法の最適化、クリティークする文献の絞り込みや方向性の決定				ゼミナール	研究指導教員
5, 6	文献クリティーク 2				ゼミナール	研究指導教員
7, 8	文献クリティーク 3				ゼミナール	研究指導教員
9, 10	文献クリティーク 4 ・クリティークした文献と自身の研究課題との関係 ・自身の研究課題の明確化				ゼミナール	研究指導教員
11, 12	文献クリティーク 5 ・クリティークした文献と自身の研究課題との関係 ・自身の研究方法の焦点化				ゼミナール	研究指導教員



回	授業内容	授業方法	担当者
13, 14	研究計画書作成 1 ・ 研究の背景と最新の動向	ゼミ ナール	研究指導 教員
15, 16	研究計画書作成 2 ・ 研究目的の明確化とその意義の明確化, 適切な研究方法の選択	ゼミ ナール	研究指導 教員
17, 18	研究計画書作成 3 ・ 研究方法の詳細な記述と考えられる倫理的問題の抽出	ゼミ ナール	研究指導 教員
19, 20	研究計画書作成 4 ・ 倫理的問題の解決と限界、研究の意義の討論	ゼミ ナール	研究指導 教員
21, 22	研究計画書作成 5 ・ 倫理的問題の解決と限界、研究の意義についての記述	ゼミ ナール	研究指導 教員
23, 24	研究倫理審査委員会申請 1 ・ 審査申請書の書き方、利益相反	ゼミ ナール	研究指導 教員
25, 26	研究倫理審査委員会申請 2 ・ 提出文書の整え方、研究倫理審査委員会への提出手続き	ゼミ ナール	研究指導 教員
27	研究倫理審査委員会申請 3 ・ 研究倫理審査委員会でのヒアリング	ゼミ ナール 演習	研究指導 教員
28, 29	研究計画の発表 ・ 研究計画発表会にて、研究計画のプレゼンテーション実施	演習	研究指導 教員
30	まとめ ・ 研究計画書作成の意義、研究倫理審査委員会申請の意義	ゼミ ナール	研究指導 教員
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	自身で文献検索し、選択した論文のクリティークや、そのプレゼンテーション準備、研究計画書作成のための時間が必要になります。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	必要に応じて適宜提示します。		
評価方法	プレゼンテーション 50%, 提出物 50%		
注意事項	指導教員とのコミュニケーションの取り方も重要な学修事項です。		



科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	荒川満枝	
授業科目名	特 別 研 究 I (国際地域看護コース)					
開講年次	1 年 後期	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	60 (4)			
授業の概要	本科目では、学生が選択した専門分野の課題について文献クリティークにより、研究課題や研究方法を明確化し、修士論文作成に向けて主体的に研究計画を立案する能力を獲得する。選択した研究デザインと研究方法を吟味し、その倫理的な検討を十分に行い、本学の研究倫理審査委員会等の必要な審査を受け承認を得るなどの経験をする。 特に本コースでは、学生の経験、興味関心、今後の活動方針より、感染症看護や感染管理看護に関する海外の現状に関する研究、日本在住の外国人に対する医療・看護の現状に関する研究、海外での医療援助活動に関する研究などをテーマとして、文献検討を行い、研究問題を明らかにし、研究計画を立てる。倫理的配慮に関して熟考・記述し、倫理審査に申請する。					
到達目標	・専門領域で取組む研究課題や研究方法を明確化ができる。 ・遂行しようとしている研究方法に関する倫理的問題について検討する能力を得る。 ・特別研究Ⅱで取り組むテーマについて、研究倫理審査委員会の審査を受け承認を得る。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1, 2	特別研究の進め方 ・修士論文提出に関する規程の確認、研究課題設定の方向性の確認				ゼミナール	研究指導教員
3, 4	文献クリティーク 1 ・研究問題の設定と文献検索、検索方法の最適化、クリティークする文献の絞り込みや方向性の決定				ゼミナール	研究指導教員
5, 6	文献クリティーク 2				ゼミナール	研究指導教員
7, 8	文献クリティーク 3				ゼミナール	研究指導教員
9, 10	文献クリティーク 4 ・クリティークした文献と自身の研究課題との関係 ・自身の研究課題の明確化				ゼミナール	研究指導教員
11, 12	文献クリティーク 5 ・クリティークした文献と自身の研究課題との関係 ・自身の研究方法の焦点化				ゼミナール	研究指導教員
13, 14	研究計画書作成 1 ・研究の背景と最新の動向				ゼミナール	研究指導教員



回	授業内容	授業方法	担当者
15, 16	研究計画書作成 2 ・研究目的の明確化とその意義の明確化、適切な研究方法の選択	ゼミ ナール	研究指導 教員
17, 18	研究計画書作成 3 ・研究方法の詳細な記述と考えられる倫理的問題の抽出	ゼミ ナール	研究指導 教員
19, 20	研究計画書作成 4 ・倫理的問題の解決と限界、研究の意義の討論	ゼミ ナール	研究指導 教員
21, 22	研究計画書作成 5 ・倫理的問題の解決と限界、研究の意義についての記述	ゼミ ナール	研究指導 教員
23, 24	研究倫理審査委員会申請 1 ・審査申請書の書き方、利益相反	ゼミ ナール	研究指導 教員
25, 26	研究倫理審査委員会申請 2 ・提出文書の整え方、研究倫理審査委員会への提出手続き	ゼミ ナール	研究指導 教員
27	研究倫理審査委員会申請 3 ・研究倫理審査委員会でのヒアリング	ゼミ ナール 演習	研究指導 教員
28, 29	研究計画の発表 ・研究計画発表会にて、研究計画のプレゼンテーション実施	演習	研究指導 教員
30	まとめ ・研究計画書作成の意義、研究倫理審査委員会申請の意義	ゼミ ナール	研究指導 教員
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	自身で文献検索し、選択した論文のクリティークや、そのプレゼンテーション準備、研究計画書作成のための時間が必要になります。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	必要に応じて適宜提示します。		
評価方法	プレゼンテーション 50%, 提出物 50%		
注意事項	指導教員とのコミュニケーションの取り方も重要な学修事項です。		



科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	近田敬子，矢倉紀子，田中響	
授業科目名	特 別 研 究 Ⅱ (地域イノベーション看護コース)					
開講年次	2 年 通年	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	90 (6)			
授業の概要	本科目では、「特別研究Ⅰ」の研究計画に基づき、実際にデータ収集及び分析を行い、そのデータについて討論する過程を経て研究論文を作成する。作成した論文は、主査1名、副査2名による審査及び公開発表会を経て、修士論文を完成する。これらの過程を経て、看護現象を分析し論理的に探求できる研究力を獲得する。 〔近田敬子〕 特別研究Ⅰで立案した研究計画書に基づき、データの収集法および分析法をプレテストで確認し、実践に入る。結果および考察を吟味しながら論文化を進める。その研究過程を通して、継続看護教育の本質を探究するとともに、自らの教育観を構築する。 〔矢倉紀子〕 「特別研究Ⅰ」で作成した研究計画書に基づいてデータ収集、データ分析、考察を行い、修士論文を作成する。この過程を通して、看護事象を研究へと論理的に探求できる力を修得する。 〔田中響〕 看護基礎教育および看護継続教育における教育方法、臨地実習指導方法などに関する研究や、地域包括ケアシステムにおける「まちの保健室」のあり方、地域リソースを活性化させるための取り組みに関する研究をテーマとした「特別研究Ⅰ」の研究計画に基づき、調査・分析、論文作成、発表のプロセスを指導する。このプロセスから看護現象を研究へと論理的に探求できる力を育成する。					
到達目標	・研究課題に即した研究方法を用いてデータの収集を行い、分析することができる。 ・分析したデータと研究の背景を統合し、適切な考察ができる。 ・指定の形式と時間に則り論文を整え、規程の時間で効果的なプレゼンテーションができる。 ・調査研究の実施過程と、修士論文の執筆の過程を通して、自身の専門性を活かした地域への貢献の方策について、考えを明示できる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1，2	データ収集の準備 (プレテスト、調査依頼など)				ゼミナール	研究指導教員
3～24	＜データ収集と分析＞ ・選択した研究方法方法でデータ収集 ・データ入力、分析、まとめ ・必要に応じた研究方法・分析の修正				ゼミナール	研究指導教員

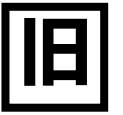


科目番号 授業科目名	〇〇〇〇 特 別 研 究 II			担当教員 E-mail	各研究指導教員	
開講年次	2 年 通年	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	90 (6)			
授業の概要	本科目では、「特別研究Ⅰ」の研究計画に基づき、実際にデータ収集及び分析を行い、そのデータについて討論する過程を経て研究論文を作成する。作成した論文は、主査1名、副査2名による審査及び公開発表会を経て、修士論文を完成する。これらの過程を経て、看護現象を分析し論理的に探求できる研究力を獲得する。					
到達目標	・ 研究課題に即した研究方法を用いてデータの収集を行い、分析することができる。 ・ 分析したデータと研究の背景を統合し、適切な考察ができる。 ・ 指定の形式と時間に則り論文を整え、規程の時間で効果的なプレゼンテーションができる。					
授業計画						
回	授業内容				授業 方法	担当者
1, 2	データ収集の準備 (プレテスト、調査依頼など)				ゼミ ナール	研究指導 教員
3～24	＜データ収集と分析＞ それぞれの研究方法方法でデータを収集する。 適宜、教員の指導を仰ぎ、データを入力、まとめながら実施する。 必要に応じて、研究方法の修正を行う。				ゼミ ナール	研究指導 教員

回	授業内容	授業方法	担当者
25～36	<研究論文の作成> ・研究の背景と目的に関して表現すべき論旨の構成 ・研究方法の正確な表現 ・研究結果と考察内容の構成	ゼミ ナール	研究指導 教員
		ゼミ ナール	研究指導 教員
		ゼミ ナール	研究指導 教員
37～39	<研究論文の推敲> ・論旨の一貫性と、研究結果の意義について	ゼミ ナール	研究指導 教員
40～41	<プレゼンテーションの準備>	ゼミ ナール	研究指導 教員
43～45	<研究発表> ・自身の研究発表と他者の発表に関する質問や意見の発信	ゼミ ナール	研究指導 教員
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	規程の時間以外にも更なる文献検索、データ分析、論文執筆のための時間が必要になります。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	必要に応じて適宜提示します。		
評価方法	プレゼンテーション 40%, 提出物 40%, 考察の内容 20%		
注意事項	修士課程で学んだことを統合させましょう。		

回	授業内容	授業方法	担当者
25～36	＜研究論文の作成＞ 研究の背景と目的に関してで表現すべき論旨 研究方法の正確な表現 研究結果と考察内容の構成	ゼミ ナール	研究指導 教員
		ゼミ ナール	研究指導 教員
		ゼミ ナール	研究指導 教員
37～39	＜研究論文の推敲＞ 論旨の一貫性と、研究結果の意義について	ゼミ ナール	研究指導 教員
40～41	＜プレゼンテーションの準備＞	ゼミ ナール	研究指導 教員
43～45	＜研究発表＞ 自身の研究発表と他者の発表に関する質問や意見の発信	ゼミ ナール	研究指導 教員
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	規程の時間以外にも更なる文献検索、データ分析、論文執筆のための時間が必要になります。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	特に指定しません。		
評価方法	プレゼンテーション 40%, 提出物 40%, 考察の内容 20%		
注意事項	修士課程で学んだことを統合させましょう。		

科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	安田美彌子	
授業科目名	特 別 研 究 Ⅱ (地域メンタルヘルス看護コース)					
開講年次	2 年 通年	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	90 (6)			
授業の概要	本科目では、「特別研究Ⅰ」の研究計画に基づき、実際にデータ収集及び分析を行い、そのデータについて討論する過程を経て研究論文を作成する。作成した論文は、主査1名、副査2名による審査及び公開発表会を経て、修士論文を完成する。これらの過程を経て、看護現象を分析し論理的に探求できる研究力を獲得する。 特に本コースでは、地域メンタルヘルス看護、アディクション看護などについて、研究計画に沿ってデータ収集、分析、考察を行い、修士論文を製作する。					
到達目標	・研究課題に即した研究方法を用いてデータの収集を行い、分析することができる。 ・分析したデータと研究の背景を統合し、適切な考察ができる。 ・指定の形式と時間に則り論文を整え、規程の時間で効果的なプレゼンテーションができる。 ・調査研究の実施過程と、修士論文の執筆の過程を通して、自身の専門性を活かした地域への貢献の方策について、考えを明示できる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1, 2	データ収集の準備 (プレテスト、調査依頼など)				ゼミ ナール	研究指導 教員
3～24	<データ収集と分析> ・選択した研究方法方法でデータ収集 ・データ入力、分析、まとめ ・必要に応じた研究方法・分析の修正				ゼミ ナール	研究指導 教員



回	授業内容	授業方法	担当者
25～36	＜研究論文の作成＞ - 研究の背景と目的に関して表現すべき論旨の構成 - 研究方法の正確な表現 - 研究結果と考察内容の構成	ゼミナール	研究指導教員
		ゼミナール	研究指導教員
		ゼミナール	研究指導教員
37～39	＜研究論文の推敲＞ 論旨の一貫性と、研究結果の意義について	ゼミナール	研究指導教員
40～41	＜プレゼンテーションの準備＞	ゼミナール	研究指導教員
43～45	＜研究発表＞ 自身の研究発表と他者の発表に関する質問や意見の発信	ゼミナール	研究指導教員
授業時間外の学習 (事前・事後学習)	規程の時間以外にも更なる文献検索、データ分析、論文執筆のための時間が必要になります。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	必要に応じて適宜提示します。		
評価方法	プレゼンテーション 40%，提出物 40%，考察の内容 20%		
注意事項	修士課程で学んだことを統合させましょう。		



科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	前田隆子，小村三千代	
授業科目名	特 別 研 究 Ⅱ (地域家族子育て支援看護コース)					
開講年次	2 年 通年	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入（受 入可能人数）	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	90 (6)			
授業の概要	本科目では、「特別研究Ⅰ」の研究計画に基づき、実際にデータ収集及び分析を行い、そのデータについて討論する過程を経て研究論文を作成する。作成した論文は、主査1名、副査2名による審査及び公開発表会を経て、修士論文を完成する。これらの過程を経て、看護現象を分析し論理的に探求できる研究力を獲得する。 〔前田隆子〕 母子保健・母子看護・家族看護について、研究計画に基づき、データ収集・分析・考察して論文作成する。 〔小村三千代〕 倫理審査承認後、研究計画書に基づいてデータ収集およびデータ分析を行い、結果および考察を推敲し修士論文を作成する。論文の作成にあたっては、研究テーマから結論まで論旨の一貫性および論理的に探究できる能力を修得する。					
到達目標	・研究課題に即した研究方法を用いてデータの収集を行い、分析することができる。 ・分析したデータと研究の背景を統合し、適切な考察ができる。 ・指定の形式と時間に則り論文を整え、規程の時間で効果的なプレゼンテーションができる。 ・調査研究の実施過程と、修士論文の執筆の過程を通して、自身の専門性を活かした地域への貢献の方策について、考えを明示できる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1， 2	データ収集の準備 (プレテスト、調査依頼など)				ゼミ ナール	研究指導 教員
3～24	＜データ収集と分析＞ ・選択した研究方法方法でデータ収集 ・データ入力、分析、まとめ ・必要に応じた研究方法・分析の修正				ゼミ ナール	研究指導 教員



回	授業内容	授業方法	担当者
25～36	<研究論文の作成> ・研究の背景と目的に関して表現すべき論旨の構成 ・研究方法の正確な表現 ・研究結果と考察内容の構成	ゼミ ナール	研究指導 教員
		ゼミ ナール	研究指導 教員
		ゼミ ナール	研究指導 教員
37～39	<研究論文の推敲> ・論旨の一貫性と、研究結果の意義について	ゼミ ナール	研究指導 教員
40～41	<プレゼンテーションの準備>	ゼミ ナール	研究指導 教員
43～45	<研究発表> ・自身の研究発表と他者の発表に関する質問や意見の発信	ゼミ ナール	研究指導 教員
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	規程の時間以外にも更なる文献検索、データ分析、論文執筆のための時間が必要になります。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	必要に応じて適宜提示します。		
評価方法	プレゼンテーション 40%, 提出物 40%, 考察の内容 20%		
注意事項	修士課程で学んだことを統合させましょう。		



科目番号	〇〇〇〇			担当教員 E-mail	荒川満枝	
授業科目名	特 別 研 究 Ⅱ (国際地域看護コース)					
開講年次	2 年 通年	必修・選択	必修		科目等履修生 ほか受入 (受 入可能人数)	不可
授業形態	演習	時間数(単位数)	90 (6)			
授業の概要	本科目では、「特別研究Ⅰ」の研究計画に基づき、実際にデータ収集及び分析を行い、そのデータについて討論する過程を経て研究論文を作成する。作成した論文は、主査1名、副査2名による審査及び公開発表会を経て、修士論文を完成する。これらの過程を経て、看護現象を分析し論理的に探求できる研究力を獲得する。 特に本コースでは、感染症看護や感染管理看護に関する海外の現状に関する研究、日本在住の外国人に対する医療・看護の現状に関する研究、海外での医療援助活動に関する研究などをテーマとする。倫理審査承認の後、計画に沿ってデータを収集・分析し、研究指導者と共に考察を十分に行う。研究計画に立ち返るとともに、論文執筆を経験し、論文作成の意義について再考する。					
到達目標	・研究課題に即した研究方法を用いてデータの収集を行い、分析することができる。 ・分析したデータと研究の背景を統合し、適切な考察ができる。 ・指定の形式と時間に則り論文を整え、規程の時間で効果的なプレゼンテーションができる。 ・調査研究の実施過程と、修士論文の執筆の過程を通して、自身の専門性を活かした地域への貢献の方策について、考えを明示できる。					
授業計画						
回	授業内容				授業方法	担当者
1, 2	データ収集の準備 (プレテスト、調査依頼など)				ゼミ ナール	研究指導 教員
3～24	<データ収集と分析> ・選択した研究方法方法でデータ収集 ・データ入力、分析、まとめ ・必要に応じた研究方法・分析の修正				ゼミ ナール	研究指導 教員



回	授業内容	授業方法	担当者
25～36	<研究論文の作成> ・研究の背景と目的に関して表現すべき論旨の構成 ・研究方法の正確な表現 ・研究結果と考察内容の構成	ゼミ ナール	研究指導 教員
		ゼミ ナール	研究指導 教員
		ゼミ ナール	研究指導 教員
37～39	<研究論文の推敲> 論旨の一貫性と、研究結果の意義について	ゼミ ナール	研究指導 教員
40～41	<プレゼンテーションの準備>	ゼミ ナール	研究指導 教員
43～45	<研究発表> 自身の研究発表と他者の発表に関する質問や意見の発信	ゼミ ナール	研究指導 教員
授業時間外 の学習 (事前・事後 学習)	規程の時間以外にも更なる文献検索、データ分析、論文執筆のための時間が必要になります。		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	必要に応じて適宜提示します。		
評価方法	プレゼンテーション 40%, 提出物 40%, 考察の内容 20%		
注意事項	修士課程で学んだことを統合させましょう。		



2. 研究計画書の作成(1年次1月)では、主研究指導教員は必要に応じて研究科委員会から助言を受けることができることが示されているが、「必要に応じて」の意図が不明である。研究指導における研究科委員会の位置付けや役割と「必要に応じて」とした理由を明確に説明するか、若しくは適切に改めること。

(対応)

研究計画書を作成した段階で、研究科委員会からの助言や指導を受ける機会があることは、学生にとって大きな利益になることと考えられたため、今回のご指摘を受け、その機会を全員が持てるよう、「研究計画発表会」を開催することとした。この発表会は、研究科委員会が開催し、発表会では委員会メンバーより研究計画に対する助言および指導をする。1年次の1月に研究計画書を完成し、年度末までに倫理委員会へ申請するスケジュールであるため、「研究計画発表会」は1年次の2月に設定した。以上の「研究計画発表会」に関する記載変更を、設置の趣旨等を記載した書類および【資料20】に関して行った。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(34～35ページ)

新	旧
[P34-35] ④ 研究計画書の作成(1年次1月) 学生は、主研究指導教員及び副研究指導教員の指導・助言を受けながら、研究課題についての具体的な研究計画書を作成する。 ⑤ 研究計画発表会(1年次2月) 学生は、④で作成した研究計画について、研究問題・研究動機・文献検索・文献検討・研究方法の選択・研究対象・研究倫理に対する考え方と準備などについて、プレゼンテーションし、研究科委員会の助言や指導を受ける。 ⑥ 研究倫理審査(申請は1年次年度末まで) ⑦ 中間発表会(2年次8月) ⑧ 修士論文の作成(2年次8月～12月) ⑨ 修士論文の提出及び最終試験(2年次1月) ⑩ 公開発表会(2年次2月) ⑪ 最終修士論文の提出及び合否判定(2年次2月)	[P34-35] ④ 研究計画書の作成(1年次1月) 学生は、主研究指導教員及び副研究指導教員の指導・助言を受けながら、研究課題についての具体的な研究計画書を作成する。主研究指導教員は、必要に応じて研究科委員会に研究課題の内容を報告し、助言を受けることができる。 ⑤ 研究倫理審査(申請は1年次年度末まで) ⑥ 中間発表会(2年次8月) ⑦ 修士論文の作成(2年次8月～12月) ⑧ 修士論文の提出及び最終試験(2年次1月) ⑨ 公開発表会(2年次2月) ⑩ 最終修士論文の提出及び合否判定(2年次2月)

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類 添付資料【資料20】特別研究実施要領(案)

新	旧
4. 研究計画書の作成(1年次1月) ・主研究指導教員及び副研究指導教員の指導・助言を受けて作成した研究課題についての具体的な研究計画書を作成する。 5. 研究計画発表会(1年次2月) ・研究計画について、研究問題・研究動機・文献検索・文献検討・研究方法の選択・研究対象・研究倫理に対する考え方と準備などについて、プレゼンテーションし、研究科委員会の助言や指導を受ける。 6. 研究倫理審査申請(1年次学年末まで) 7. 研究開始 8. 中間発表会(2年次8月) 9. 修士論文の作成(2年次8月～12月) 10. 修士論文の提出及び最終試験(2年次1月) 11. 公開発表会(2年次2月) 12. 最終修士論文の提出及び合否判定(2年次2月) 特別研究に関するタイムスケジュール 1年次 2月 研究計画発表会 発表会の開催 計画案に対して助言と指導	4. 研究計画書の作成(1年次1月) ・主研究指導教員及び副研究指導教員の指導・助言を受けて作成した研究課題についての具体的な研究計画書を作成する。この際、必要に応じ、主研究指導教員を通して研究科委員会に研究計画を報告し、委員会の助言を受けることができる。 5. 研究倫理審査申請(1年次学年末まで) 6. 研究開始 7. 中間発表会(2年次8月) 8. 修士論文の作成(2年次8月～12月) 9. 修士論文の提出及び最終試験(2年次1月) 10. 公開発表会(2年次2月) 11. 最終修士論文の提出及び合否判定(2年次2月) 特別研究に関するタイムスケジュール

3. 教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、今後の採用計画など教員組織編制の将来構想の明確化が望まれるので、対応方針について回答すること。

(対応)

本学教員の定年年齢は教授が70歳、准教授以下は65歳と定めている。理事会の承認を受け特例措置により大学院開設年次には4名、完成年次には加えて1名が定年を超えるのを認めているが、教員の年齢構成が比較的高齢に偏っているのは指摘の通りである。完成年度以降は、定年年齢の範囲内の教員とすることとしている。

そのためには計画的な人事計画が必要であり、52歳の教授を委員長とする将来構想委員会(教職員7名で構成)を設置した。同委員会では、学部、大学院の将来構想と関連させて人事計画を作成している。その柱は「中堅、若手教員の研究・教育能力の育成と登用」と「新規採用」である。

現任教員の「育成と登用」については、本大学院の母体である鳥取看護大学開設当時より、教育研究費の補助(一件あたり年間最高20万円:平成27年度5件、28年度9件、29年度12件、30年度15件採択)を行っている。また各教授が研究指導を行い、若手、中堅教員の学会発表や論文報告の実績を積み上げてきた。その結果、この2-3年の間に何名かの教員について教授や准教授への昇任が見込まれ今後も継続して支援していく。

「新規採用」については、鳥取看護大学の完成年度以降を見据え、早い段階から行ってきた。平成27年度、28年度の開設後の2年間は、応募者は多くはなかったが、29年度以降、鳥取県や近隣の県出身者で、現在、関西圏、四国、また遠く北海道で勤務中の教員から多くの問い合わせや応募がある。その内、30年度に准教授1名を採用し、31年度に教授2名(いずれも57歳)・准教授1名(54歳)、33年度に教授1名(63歳)の採用が内定しており、いずれの教員も学部、大学院の兼担となる。今後も学部教育と大学院教育を担える人材を計画的に採用していく予定である。

鳥取看護大学への応募者が増加しているのは、完成年度に向けて順調に発展していること、Webや新聞、地域の広報誌、本学のパンフレット等による学部教育の情報公開、発信、平成29年8月に本学が主催として開催した「日本災害看護学会 第19回年次大会」等で本学の認知がすすんでいるためと思われる。

今後も、将来を展望した人事計画に基づき、上記2つの方策によって、教員年齢構成の適正化と大学院教育の充実を図る所存である。

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(27～28ページ)

新	旧
なお、本学教員の定年は教授が満70歳、准教授以下は満65歳であり(鳥取看護大学大学院・鳥取看護大学・鳥取短期大学就業規則(案)第41条)、開設時に定年を超えている教員が4名いるが、任期付き教員任用制度で雇用し、再任も可能である。鳥取県では基礎看護教育を担うに値する人材が少ないことは既に述べたところではあるが、大学院教育ではさらにその人材確保が難しい。そこで本申請では、定年を超えてはいても後進の教員育成に高い意欲のある教員を配置した。つまり、これらの教員は大学院設置後には、大学院生の教育は勿論、その大学院教育を通して今後の大学院教育を担う後進の育成をすることも、その重要な務めと認識している。経験のある教員の下、看護学部の教員は、教授陣の大学院生教育の補助の務めや授業参観の機会の獲得により、大学院生の学修課程を理解し、大学院教員としての資質を涵養する機会を得る。 <u>上記の定年を超えた教員の採用は完成年度までの時限付であり、完成年度後には定年の範囲での採用に移行するため、年齢層の改善を見込んでいる。ただし、それに伴い完成年度後に大学院の教育レベルの維持は大きな課題となることが予測されるため、大学院生が意欲的に専門性を追究できるよう、任期を終えた教員の後継の教員として現任教員の育成や補充は必須課題と考えている。そこで鳥取看護大学では、計画的な人事計画を企図して、</u>	なお、本学教員の定年は教授が満70歳、准教授以下は満65歳であり(鳥取看護大学大学院・鳥取看護大学・鳥取短期大学就業規則(案)第41条)、開設時に定年を超えている教員が4名いるが、任期付き教員任用制度で雇用し、再任も可能である。鳥取県では基礎看護教育を担うに値する人材が少ないことは既に述べたところではあるが、大学院教育ではさらにその人材確保が難しい。そこで本申請では、定年を超えてはいても後進の教員育成に高い意欲のある教員を配置した。つまり、これらの教員は大学院設置後には、大学院生の教育は勿論、その大学院教育を通して今後の大学院教育を担う後進の育成をすることも、その重要な務めと認識している。経験のある教員の下、看護学部の教員は、教授陣の大学院生教育の補助の務めや授業参観の機会の獲得により、大学院生の学修課程を理解し、大学院教員としての資質を涵養する機会を得る。また、教育研究費の補助や、研究・教育の指導によって、学部教員がその研究・教育業績を積み上げるための支援も積極的に行う。このような方策により、完成年度後に大学院の教育レベルを維持し、大学院生が意欲的に専門性を追究できるよう、任期を終えた教員の後継の教員育成にも努める。定年を超えた教員の学部教育の負担については、極力その負担を減らすよう学部教育分担教員の変更を行う。

新	旧
52歳の教授を委員長とする将来構想委員会(教職員7名で構成)を設置している。同委員会では、学部、大学院の将来構想と関連させて人事計画を作成しており、その柱は「中堅、若手教員の研究・教育能力の育成と登用」と「新規採用」である。 現任教員の育成に関して具体的には、研究プロジェクトの提案やその継続による教育研究費の補助(一件あたり年間最高20万円)を行っており、平成27年度は5件、平成28年度は9件、平成29年度は12件、平成30年度は15件を採択し、学内で研究活動を行う基盤を整備するとともに、教授による准教授以下への研究・教育の指導によって、学部教員がその研究・教育業績を積み上げるための支援を既に現在も行っている。実際に毎年学会発表や論文報告の実績が積み上げられている。今後このような支援を積極的に継続することで、若手の准教授および助教を昇格させていくことが可能となると見込んでいる。 また、本大学院の基盤組織である鳥取看護大学は現在進行年度中であり、平成30年度は開学4年目の完成年度となる。開学3年目の平成29年8月には、全国学会である「日本災害看護学会 第19回年次大会」を主催し、成功裡に終えることができた。学部教育を着実に積み重ね、その成果とその成果を踏まえた今後の計画等を自己点検および自己評価に基づいて、Web等で情報公開をしている。その下で人事計画に基づいて教員の募集を行っているが、1,2年目は思ったような応募がなかった。しかし、3年目からは様相が変化し、鳥取県・島根県など中国地方出身で、現在全国各地(鳥取県内、関西圏、北海道)で活躍中の看護教育者からの問い合わせや応募が来るに至り、その希望や勤務状況によって、平成30年度以降33年度からの採用まで予定しているところである。これらの応募教員は、本学のホームページを閲覧している者ばかりで、本学の地域志向の趣旨についても良く理解した上での応募となっていて、本学にしっかりと定着して教育・研究に専念する者であり、大学院教育の安定継続を図ることができる考える。従って、引き続き着実に教育・研究実績を積み、情報公開を行ったうえで、新規採用を進めていきたい。 一方、定年を超えた教員には上述の通り大学院教育と次世代教員育成の任務があるため、学部教育の負担については、極力その負担を減らすよう学部教育分担教員の変更を行う。	